

中井町 男女共同参画に関するアンケート
調査結果報告書

令和7年11月

中井町

目 次

I 調査の概要	5
1. 調査の目的	3
2. 実施概要	3
3. 調査項目	3
4. 報告書を読む際の留意点	3
II 調査の結果	6
1. 回答者の属性	7
(1) 性別.....	7
(2) 年齢.....	7
(3) 職業.....	8
(4) 家族構成.....	9
(5) 婚姻状況.....	10
(6) 共働きの状況.....	11
2. 男女の地位の平等について	12
(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について.....	12
(2) 各分野における男女の平等感.....	13
3. 家事や子育てに関する意識について	23
(1) 子どもの育て方について.....	23
(2) 進路や職業の選択における性別の意識.....	28
4. 用語などの認知度について	29
(1) 男女共同参画に関する用語や法律、町の取組等の認知.....	29
5. 男女がともに働きやすい就業環境について	42
(1) 女性が働くことについて.....	42
(2) すべての人が働きやすくなるために必要なこと.....	43
(3) 育児休業・介護休業の取得意向について.....	44
6. 防災対策における男女参画について	46
(1) 男女共同参画の視点から特に必要な避難所での支援や配慮.....	46
7. DV・デートDVについて	48
(1) DVやデートDVの対策や防止のために必要なこと.....	48
8. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について	50
(1) 家事・育児・介護等の役割分担.....	50
(2) 家庭内の役割分担への満足度.....	55
(3) ワーク・ライフ・バランスの希望と現実.....	56

9. 男女共同参画社会の実現に向けて	59
(1) 男女共同参画社会実現をめざし町が重点を置くべき取組	59
10. 自由回答	61
Ⅲ 調査票	65

I 調査の概要

1. 調査の目的

新たな「中井町男女共同参画プラン」の策定にあたり、住民の男女共同参画に関する意識や考え方を把握し、今後の男女共同参画に関する施策や取組に反映させるための基礎資料とすることを目的とします。

2. 実施概要

項 目	内 容
①調査対象	町内在住の 18 歳以上 1,000 名
②抽出方法	住民基本台帳より無作為抽出
③調査方法	郵送配付・郵送回収（インターネットによる回答を併用）
④調査期間	令和 7 年 7 月 24 日～令和 7 年 8 月 13 日
⑤回収結果	郵送 193 件 WEB 80 件 計 273 件（27.3%）

3. 調査項目

調査項目
<ul style="list-style-type: none">▶ 男女の地位の平等について▶ 家事や子育てに関する意識について▶ 用語などの認知度について▶ 男女がともに働きやすい就業環境について▶ 防災対策における男女共同参画について▶ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

4. 報告書を読む際の留意点

- 調査結果の比率は、その設問の回答者を基数として、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しています。そのため、合計が 100%にならない場合があります。
- 複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常 100%を超えます。
- 表・グラフ中の「n=」とは、回答者数を表します。
- 選択肢の語句が長い場合、本文中や表・グラフでは省略した表現を用いることがあります。

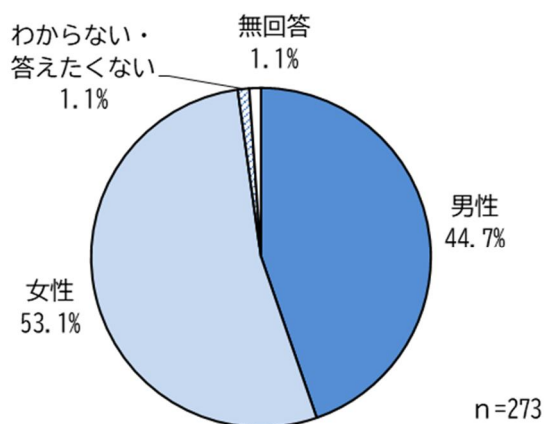
Ⅱ 調査の結果

1. 回答者の属性

(1) 性別

問1 あなたの性別（自認する性別）をお答えください。（1つに○）

「男性」が44.7%、「女性」が53.1%、「わからない・答えたくない」が1.1%となっています。

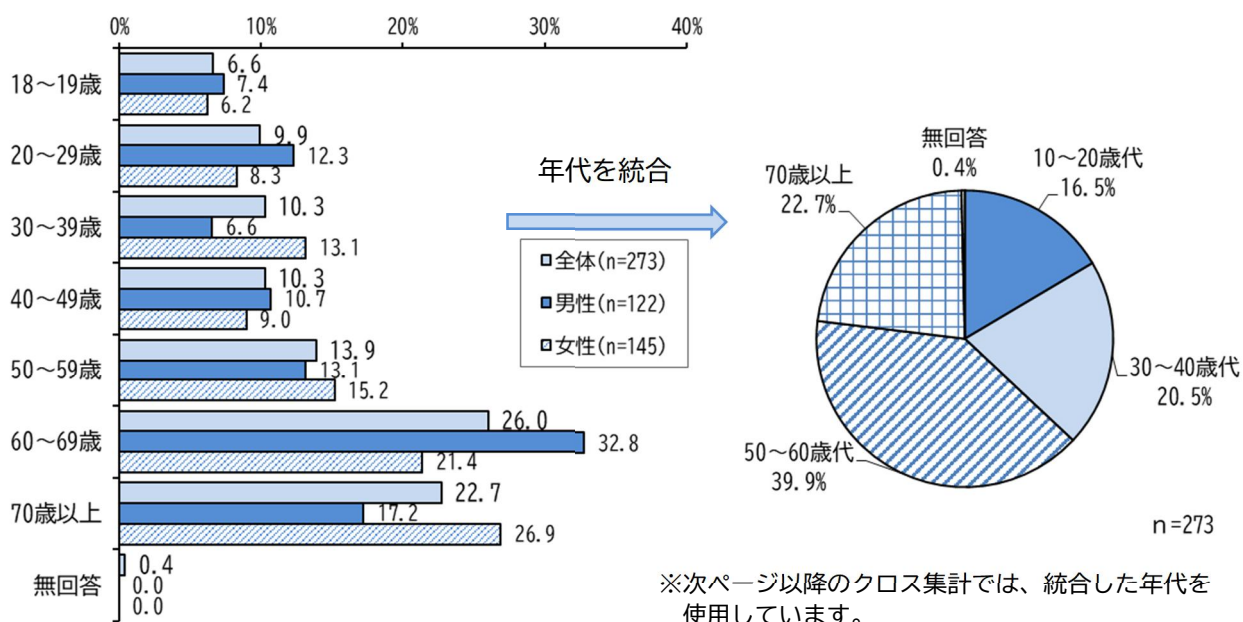


(2) 年齢

問2 あなたの年齢（令和7年7月1日現在）はどれにあてはまりますか。（1つに○）

「60～69歳」が26.0%で最も高く、次いで「70歳以上」が22.7%、「50～59歳」が13.9%、「30～39歳」が10.3%、「40～49歳」が10.3%、「20～29歳」が9.9%となっています。

性別でみると、男性では「60～69歳」が、女性では「70歳以上」が互いの性別を上回ります。



(3) 職業

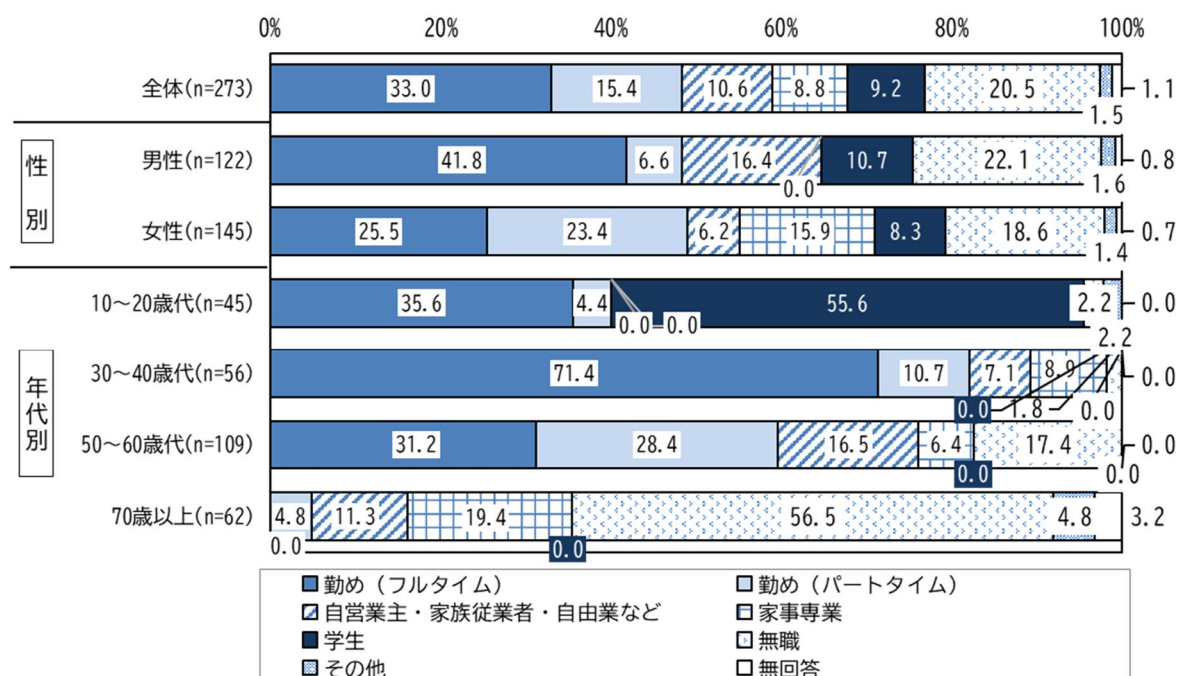
問3 あなたの職業はどれにあてはまりますか。(1つに○)

※複数の職業をお持ちの方は主なものをお答えください。

「勤め（フルタイム）」が 33.0%で最も高く、次いで「無職」が 20.5%、「勤め（パートタイム）」が 15.4%、「自営業主・家族従業者・自由業など」が 10.6%、「学生」が 9.2%、「家事専業」が 8.8%となっています。

性別でみると、男性は「勤め（フルタイム）」や「無職」の回答が多く、女性は男性に比べ「勤め（パートタイム）」や「家事専業」が高くなっています。

年代別でみると、30～40 歳代では「勤め（フルタイム）」が7割を超えていますが、70歳以上では「無職」が5割以上と最も高くなっています。



(4) 家族構成

問4 あなたの家族構成はどれにあてはまりますか。(1つに○)

「両親と子の2世代世帯」が38.8%で最も高く、次いで「夫婦（又はパートナー同士）のみ」が29.3%、「祖父母と親と子の3世代世帯」が14.7%、「一人暮らし」が6.2%、「母子・父子の2世代世帯」が5.5%となっています。

性別でみると、男女ともに「両親と子の2世代世帯」の割合が最も高くなっています。

年代別でみると、10～40歳代では「両親と子の2世代世帯」、50歳以上では「夫婦（又はパートナー同士）のみの世帯」が最も高くなっています。

単位：％

		一人暮らし	夫婦（又はパートナー同士）のみ	両親と子の2世代世帯	母子・父子の2世代世帯	祖父母と親と子の3世代世帯	その他	無回答
全体(n=273)		6.2	29.3	38.8	5.5	14.7	4.8	0.7
性別	男性(n=122)	6.6	29.5	36.9	3.3	19.7	4.1	0.0
	女性(n=145)	6.2	29.7	41.4	6.9	10.3	4.8	0.7
年代別	10～20歳代(n=45)	2.2	2.2	62.2	0.0	31.1	2.2	0.0
	30～40歳代(n=56)	5.4	5.4	66.1	7.1	14.3	1.8	0.0
	50～60歳代(n=109)	6.4	38.5	29.4	7.3	11.0	6.4	0.9
	70歳以上(n=62)	9.7	54.8	14.5	4.8	9.7	6.5	0.0

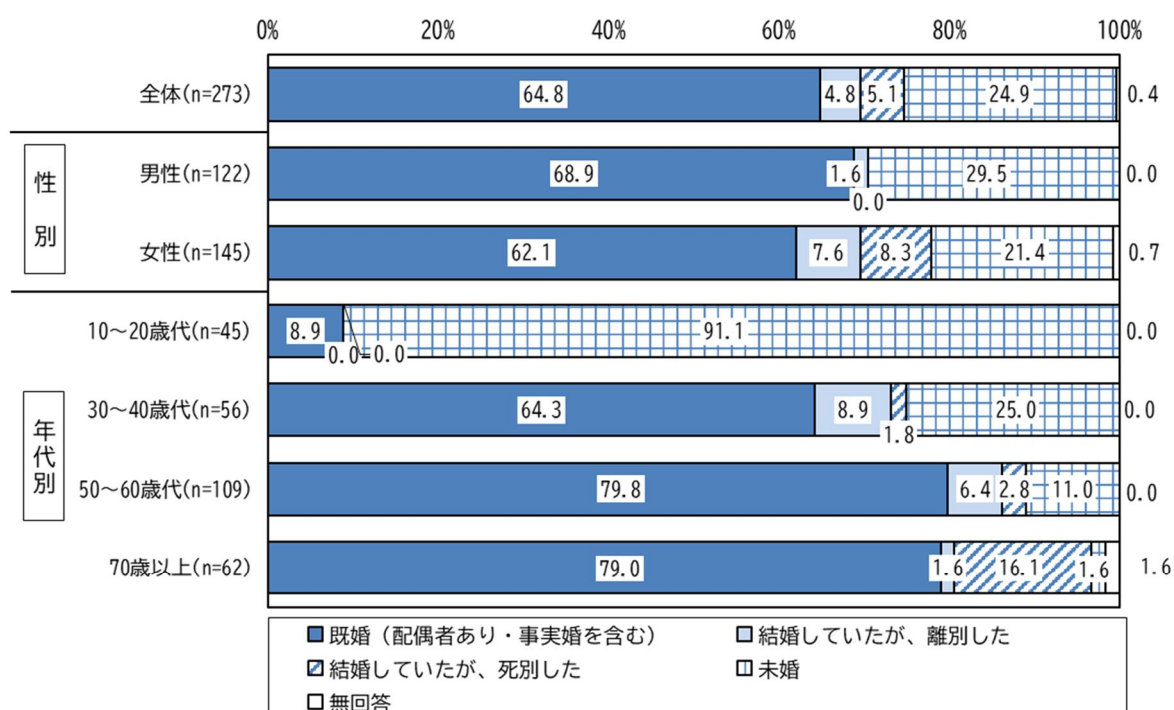
(5) 婚姻状況

問5 あなたは結婚されていますか。(1つに○)

「既婚（配偶者あり・事実婚を含む）」が64.8%で最も高く、次いで「未婚」が24.9%、「結婚していたが、死別した」が5.1%、「結婚していたが、離別した」が4.8%となっています。

性別でみると、男性で「未婚」、女性で「結婚していたが、離別した」と「結婚していたが、死別した」の割合が高くなっています。

年代別でみると、10～20歳代では「未婚」、30歳以上は「既婚（配偶者あり・事実婚を含む）」が最も高く、50～60歳代と70歳以上では約8割である一方、70歳以上では「結婚していたが、離別、死別した」割合も1割半ばと高くなっています。



※以降の設問の一部で、「既婚」と「未婚・離別・死別」にカテゴリーをまとめた上、婚姻状況別のクロス集計を行っている。

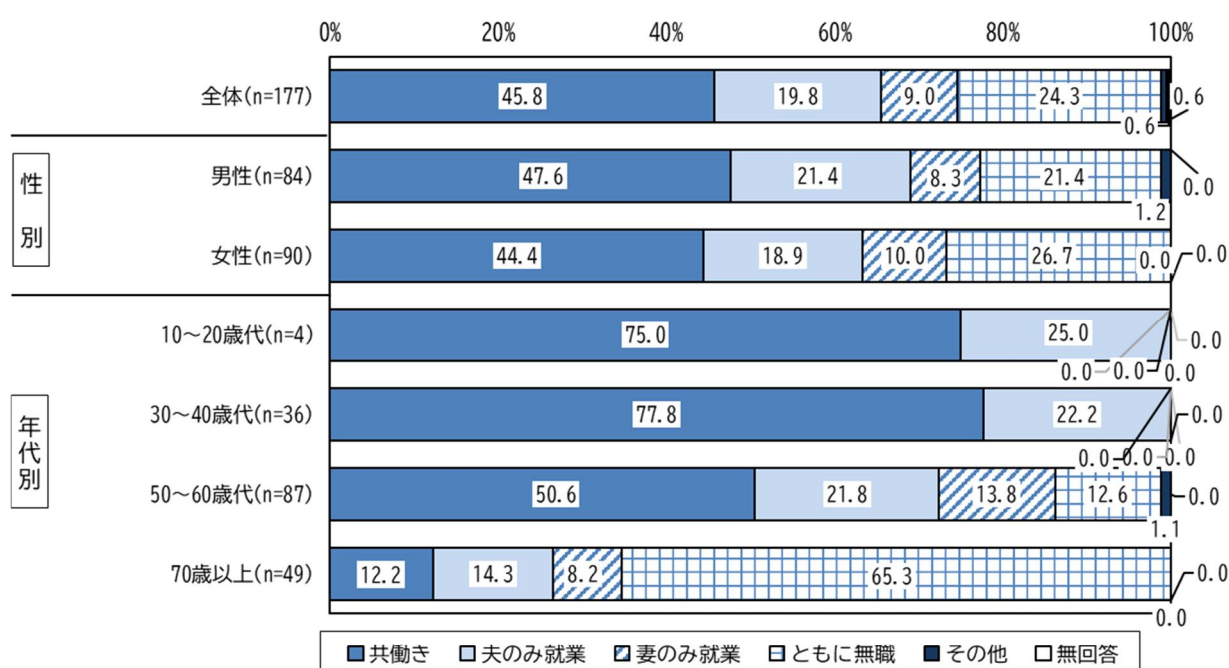
(6) 共働きの状況

問6 あなたの家庭はご夫婦とも職業をお持ちの家庭ですか。それとも、どちらか一方が働いている家庭ですか。(1つに○)

「共働き」が45.8%で最も高く、次いで「ともに無職」が24.3%、「夫のみ就業」が19.8%、「妻のみ就業」が9.0%となっています。

性別でみると、男女ともに「共働き」の割合が最も高くなっています。

年代別でみると、10～60歳代では「共働き」が最も高く、特に10～20歳代と30～40歳代では7割を超える一方、70歳以上では、「ともに無職」が6割半ばと最も高くなっています。



2. 男女の地位の平等について

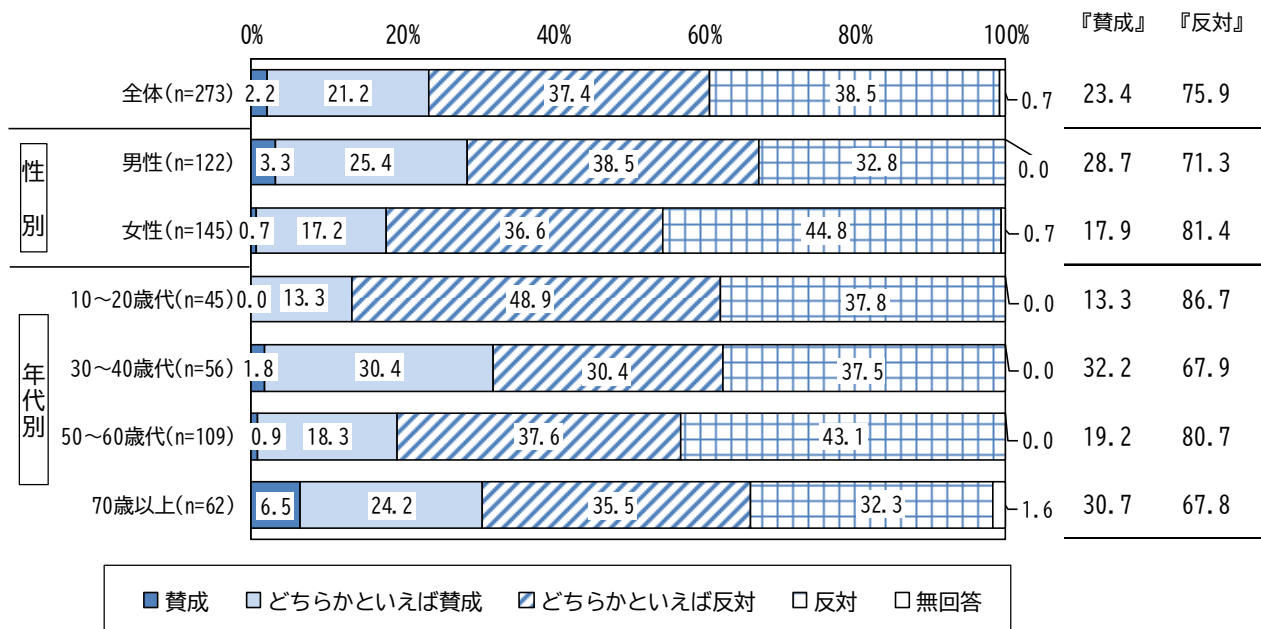
(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

問7 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。(1つに○)

「反対」が38.5%で最も高く、「どちらかといえば反対」37.4%と合わせた、『反対』は75.9%となっています。これに対し、「どちらかといえば賛成」21.2%と「賛成」2.2%を合わせた『賛成』は23.4%となっています。

性別でみると、『賛成』は男性28.7%、女性17.9%であり、男性が女性を上回ります(10.8ポイント差)。

年齢別でみると、『賛成』は30～40歳代の32.2%と70才以上の30.7%で3割を超えています。一方で、10～20歳代では1割台にとどまっています。



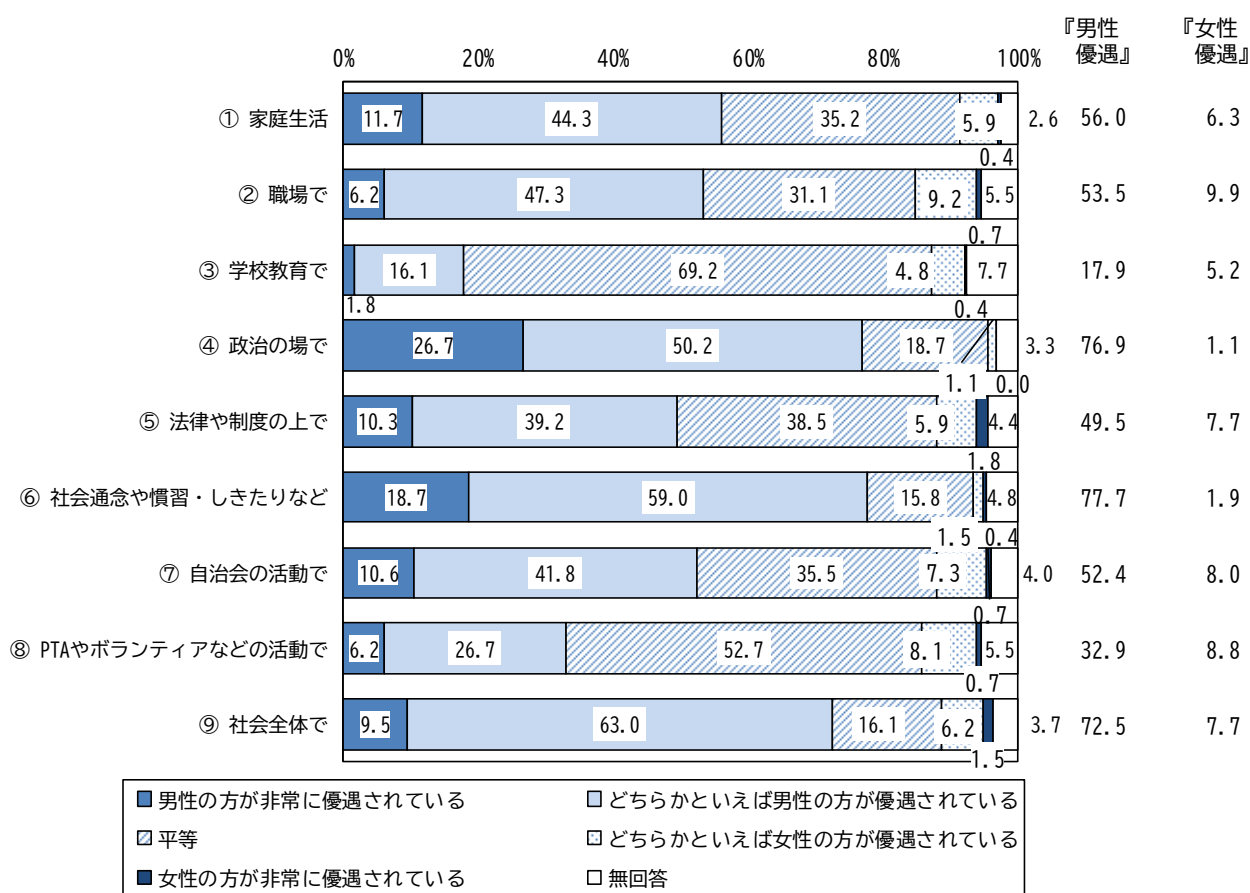
(2) 各分野における男女の平等感

問8 あなたは、次の分野で男女が平等になっていると思いますか。(それぞれ1つに○)

「平等」との回答の割合は、＜③学校教育で＞が69.2%と最も高く、次いで＜⑧PTAやボランティアなどの活動で＞が52.7%、＜⑤法律や制度の上で＞が38.5%となっています。

一方で、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合計した『男性優遇』は、＜⑥社会通念や慣習・しきたりなど＞や＜④政治の場で＞、＜⑨社会全体で＞で7割を超え高くなっています。

【全体の結果】

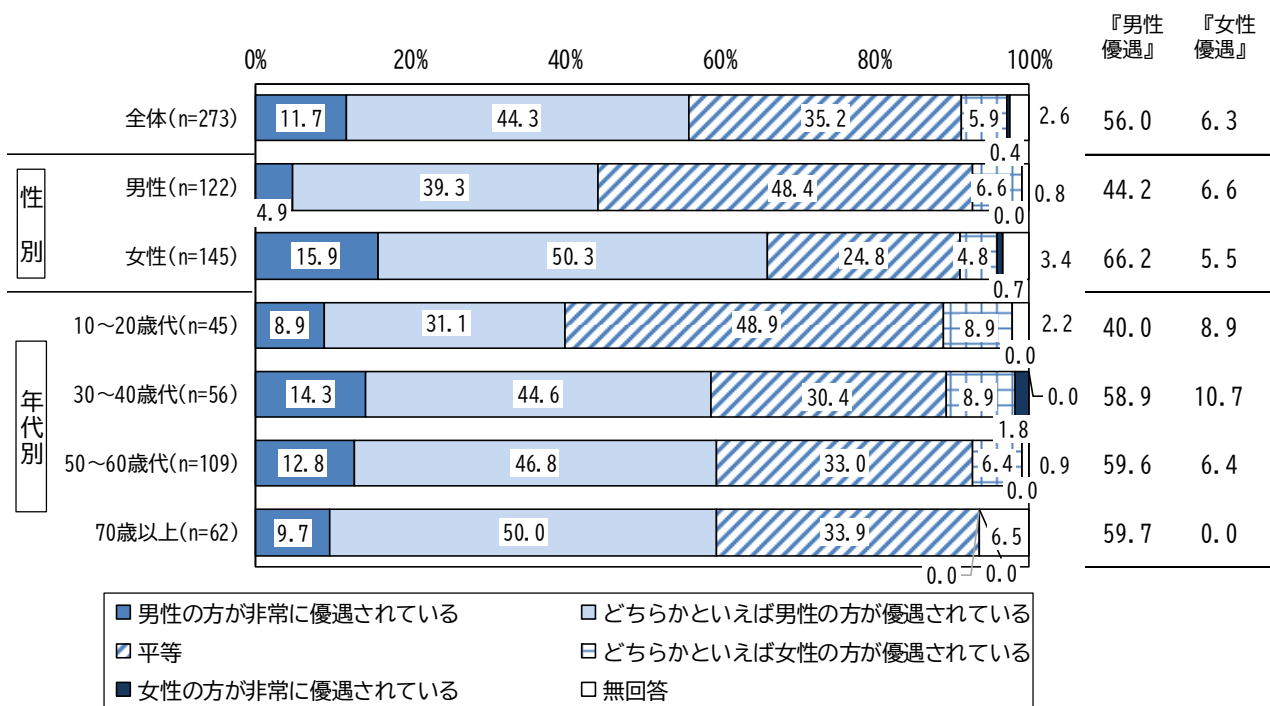


① 家庭生活

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が44.3%で最も高く、次いで「平等」が35.2%、「男性の方が非常に優遇されている」が11.7%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が5.9%、「女性の方が非常に優遇されている」が0.4%となっています。

性別でみると、「平等」は男性が女性を大きく上回り（23.6ポイント差）、反対に『男性優遇』は女性が男性を大きく上回っています（22.0ポイント差）。

年代別でみると、10～20歳代の若い世代では「平等」の割合が4割後半で高く、30歳以上では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。また、『男性優遇』は30歳以上ではいずれの年代も6割近い値となっています。

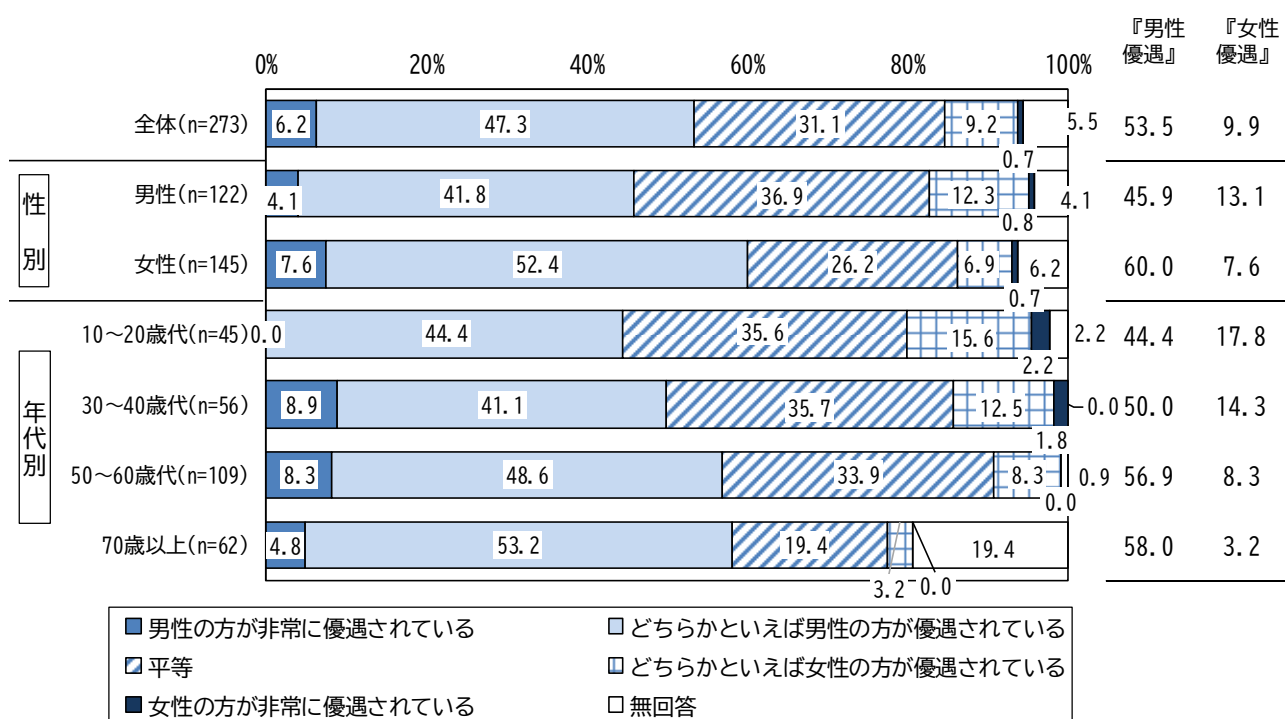


② 職場で

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が47.3%で最も高く、次いで「平等」が31.1%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が9.2%、「男性の方が非常に優遇されている」が6.2%、「女性の方が非常に優遇されている」が0.7%となっています。

性別でみると、男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっていますが、『男性優遇』は女性が男性を上回ります（14.1ポイント差）。

年代別でみると、いずれの年代も「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。また、『男性優遇』は30歳以上で5割を超えています。

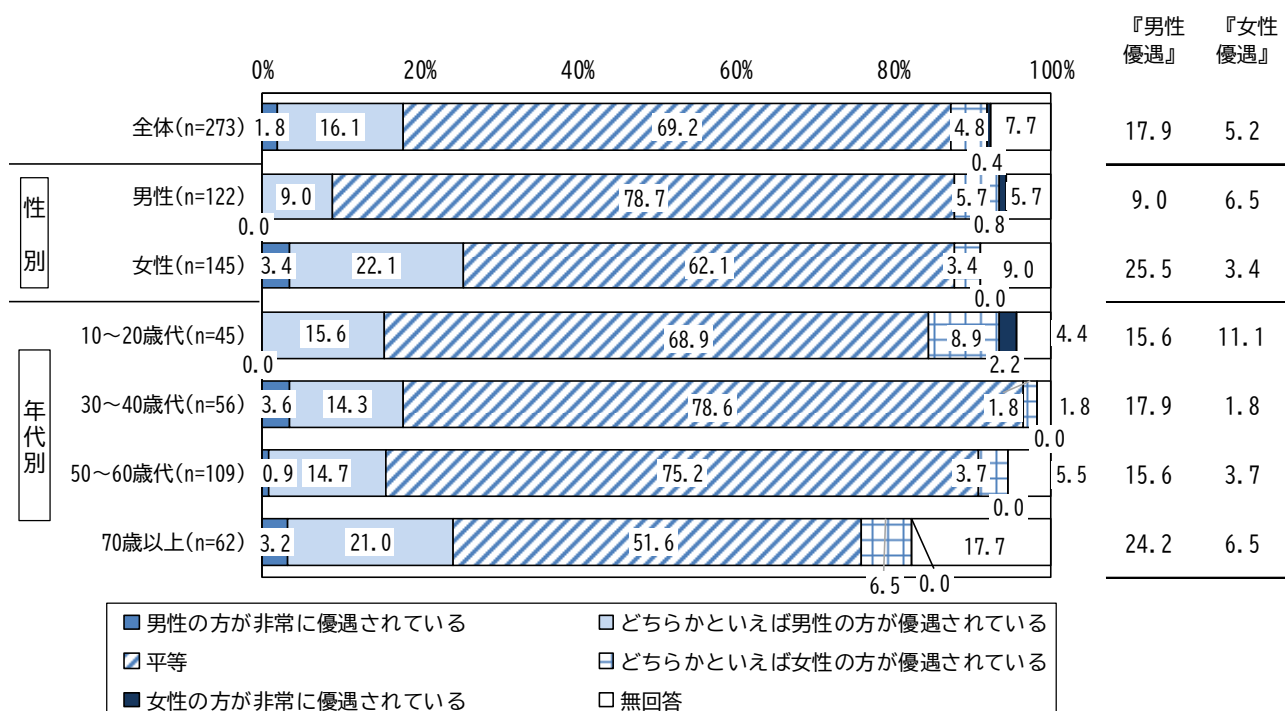


③ 学校教育の場で

「平等」が69.2%で最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が16.1%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が4.8%、「男性の方が非常に優遇されている」が1.8%、「女性の方が非常に優遇されている」が0.4%となっています。

性別でみると、「平等」は男性が女性を上回り（16.6 ポイント差）、『男性優遇』は女性が男性を上回ります（16.5 ポイント差）。

年代別でみると、いずれの年代も「平等」が最も高く、特に30～40歳代と50～60歳代では7割を超えています。『男性優遇』は70歳以上のみ2割半ばと他の年代を上回りますが、10～20歳代では『女性優遇』も約1割と他の年代に比べ高くなっています。

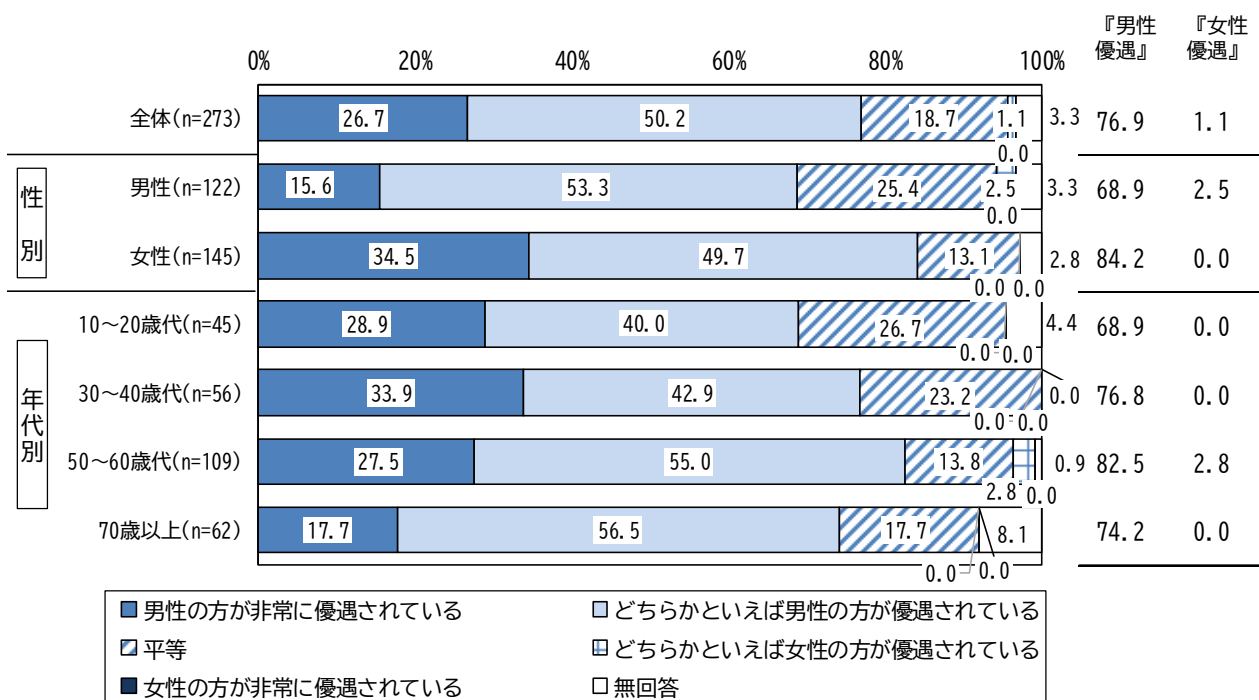


④ 政治の場で

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が50.2%で最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」が26.7%、「平等」が18.7%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が1.1%となっています。

性別でみると、男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっていますが、「男性の方が特に優遇されている」は、女性が男性を大きく上回ります（18.9ポイント差）。

年代別でみると、いずれの年代も「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっており、『男性優遇』は30～40歳代と70歳以上で7割半ば、50～60歳代では8割を超えています。

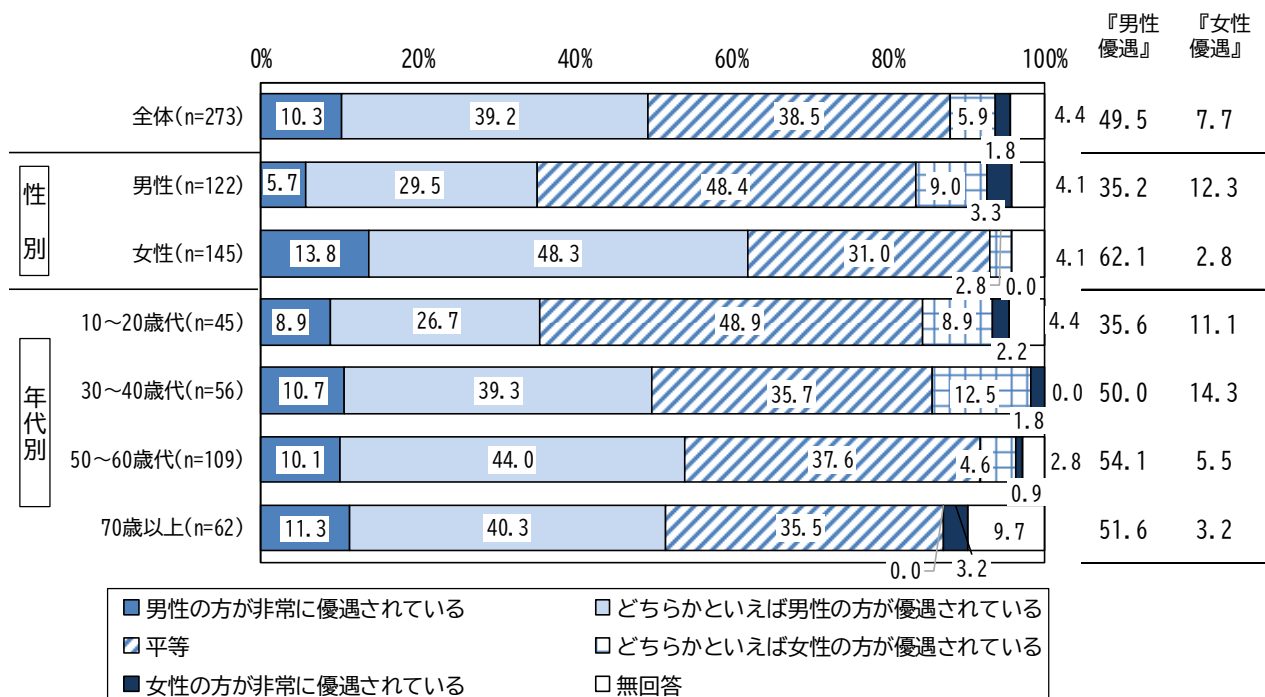


⑤ 法律や制度の上で

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が39.2%で最も高く、次いで「平等」が38.5%、「男性の方が非常に優遇されている」が10.3%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が5.9%、「女性の方が非常に優遇されている」が1.8%となっています。

性別でみると、男性は「平等」、女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっており、『男性優遇』は女性が男性を大きく上回ります(26.9ポイント差)。

年代別でみると、10～20歳の若い世代は「平等」が4割後半と高くなっています。『男性優遇』は、10～20歳代を除くいずれの年代でも5割を超えています。

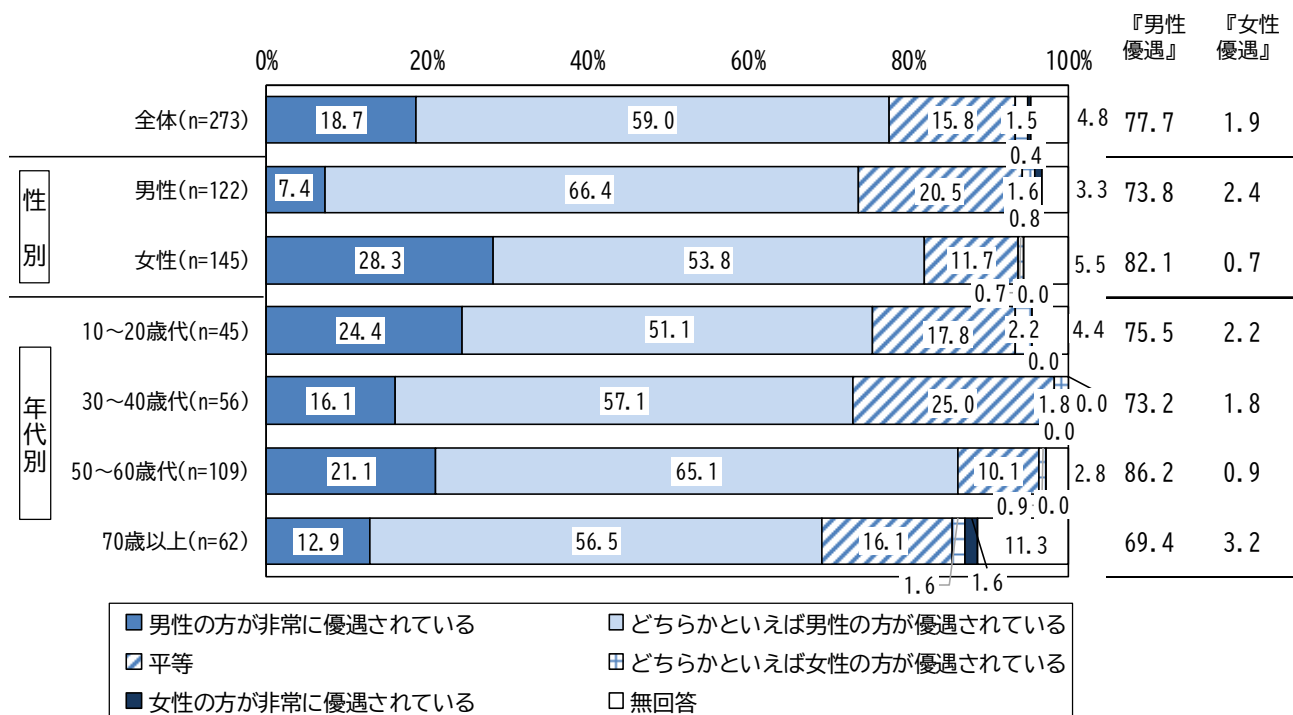


⑥ 社会通念や慣習・しきたりなど

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が59.0%で最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」が18.7%、「平等」が15.8%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が1.5%、「女性の方が非常に優遇されている」が0.4%となっています。

性別でみると、男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっていますが、女性は「男性の方が非常に優遇されている」割合が2割後半と高く、『男性優遇』では女性が男性を上回ります（8.3ポイント差）。

年代別でみると、いずれの年代も「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高く、50～60歳代は8割半ばが『男性優遇』であるなど他の年代に比べて高くなっています。

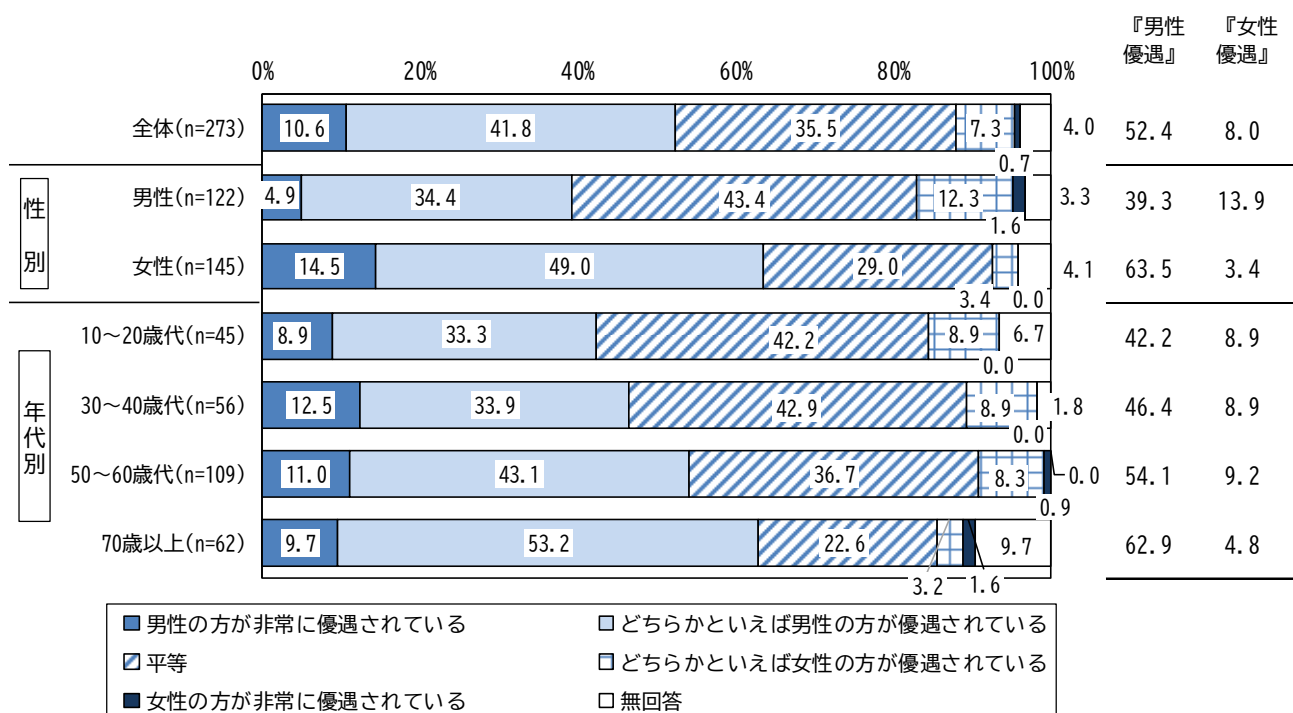


⑦ 自治会の活動で

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が41.8%で最も高く、次いで「平等」が35.5%、「男性の方が非常に優遇されている」が10.6%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が7.3%、「女性の方が非常に優遇されている」が0.7%となっています。

性別でみると、男性の4割前半が「平等」、一方で女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が約5割と最も高くなっています。

年代別でみると、10～40歳代では「平等」が4割前半、50歳以上で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高く、『男性優遇』は70歳以上が6割前半と、年代が上がるほど高くなる傾向にあります。

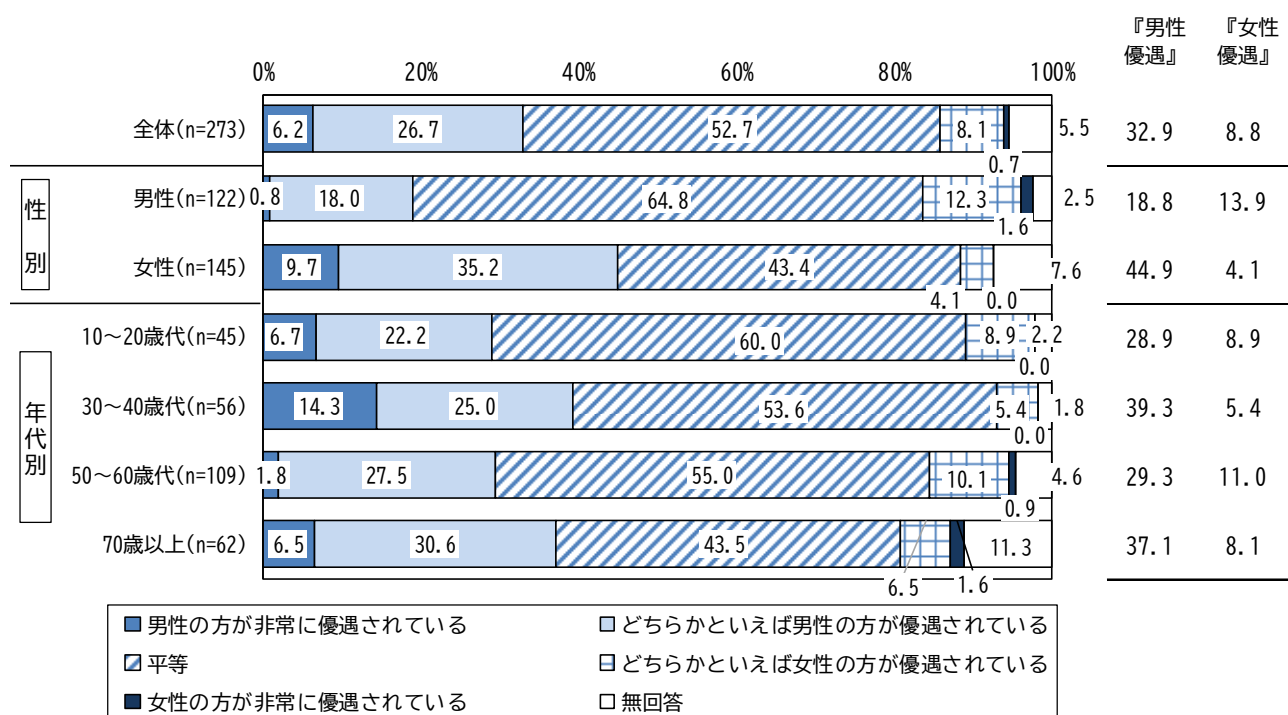


⑧ PTAやボランティアなどの活動で

「平等」が52.7%で最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が26.7%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が8.1%、「男性の方が非常に優遇されている」が6.2%、「女性の方が非常に優遇されている」が0.7%となっています。

性別でみると、男女ともに「平等」が最も高くなっています。一方で『男性優遇』は女性が男性を大きく上回ります（26.1ポイント差）。

年代別でみると、いずれの年代も「平等」が高い傾向にあります。10～20歳代の若い世代は「平等」が6割と特に高くなっています。一方、『男性優遇』は30～40歳代で約4割、70歳以上で3割後半と高くなっています。

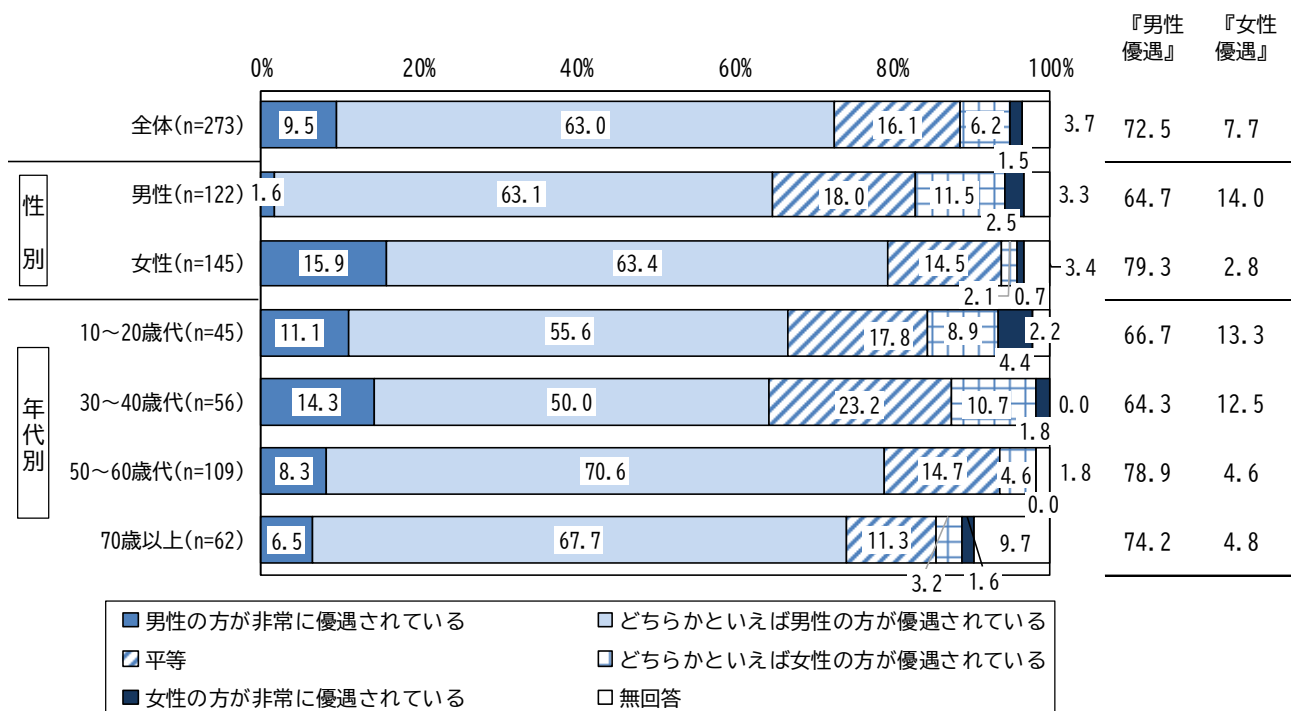


⑨ 社会全体で

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が63.0%で最も高く、次いで「平等」が16.1%、「男性の方が非常に優遇されている」が9.5%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が6.2%、「女性の方が非常に優遇されている」が1.5%となっています。

性別でみると、男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっていますが、『男性優遇』は女性が男性を上回ります（14.6 ポイント差）。

年代別でみると、いずれの年代も「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっており、『男性優遇』は50歳以上で7割を超えています。



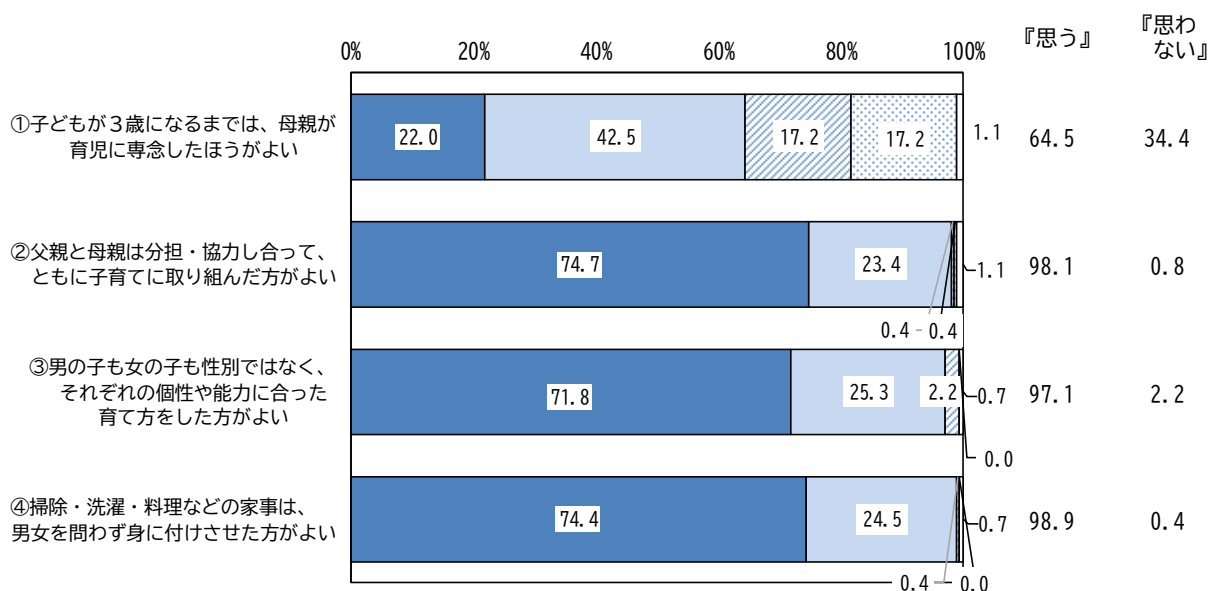
3. 家事や子育てに関する意識について

(1) 子どもの育て方について

問9 以下の家事や子育て・育児に関する考え方についてどう思いますか。(それぞれ1つに○)

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計した『思う』は、＜①子どもが3歳になるまでは、母親が育児に専念した方がよい＞を除き、いずれも9割を超えています。

それに合わせ、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合計した『思わない』は、＜①子どもが3歳になるまでは、母親が育児に専念した方がよい＞で3割半ばとなっています。

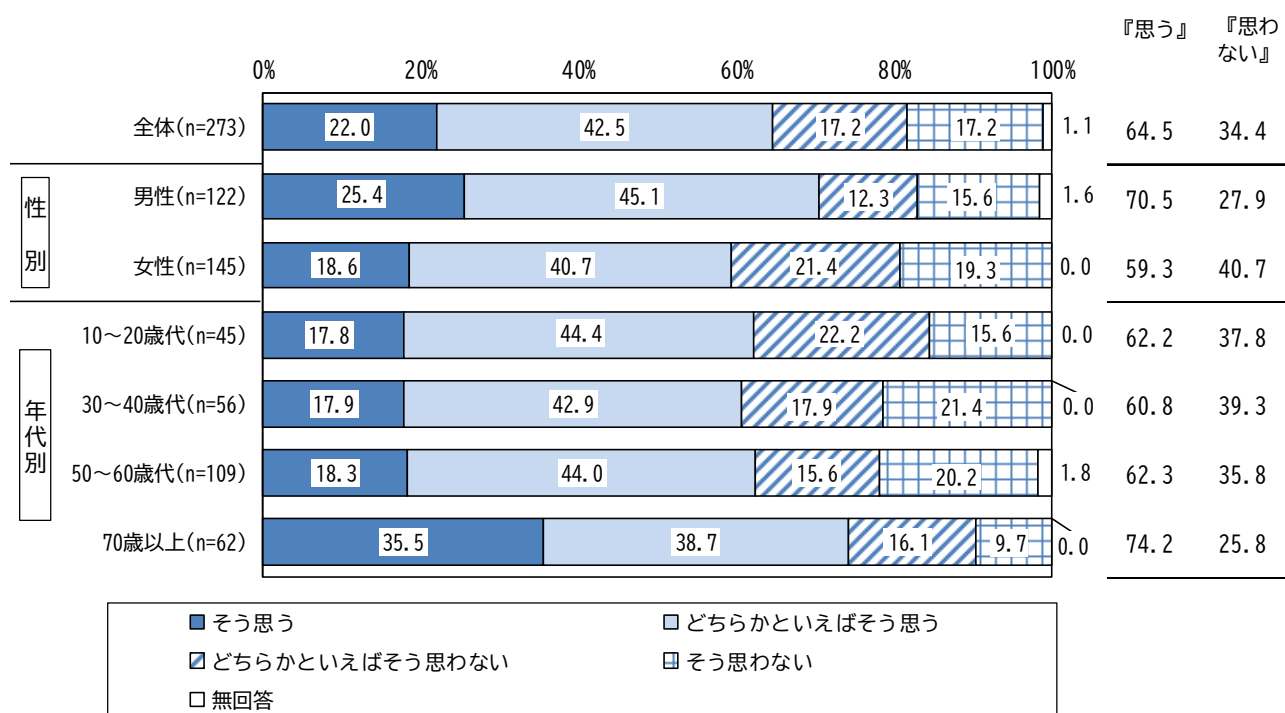


① 子どもが3歳になるまでは、母親が育児に専念したほうがよい

「どちらかといえばそう思う」が42.5%で最も高く、次いで「そう思う」が22.0%、「どちらかといえばそう思わない」が17.2%、「そう思わない」が17.2%となっています。

性別でみると、男女ともに「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっていますが、女性に比べ男性で「どちらかといえばそう思う」(45.1%)と「そう思う」(25.4%)を合わせた『思う』は70.5%と高くなっています(11.2ポイント差)。

年代別でみると、いずれの年代も「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっており、70歳以上は『思う』が7割半ばと他の年代に比べて高くなっています。

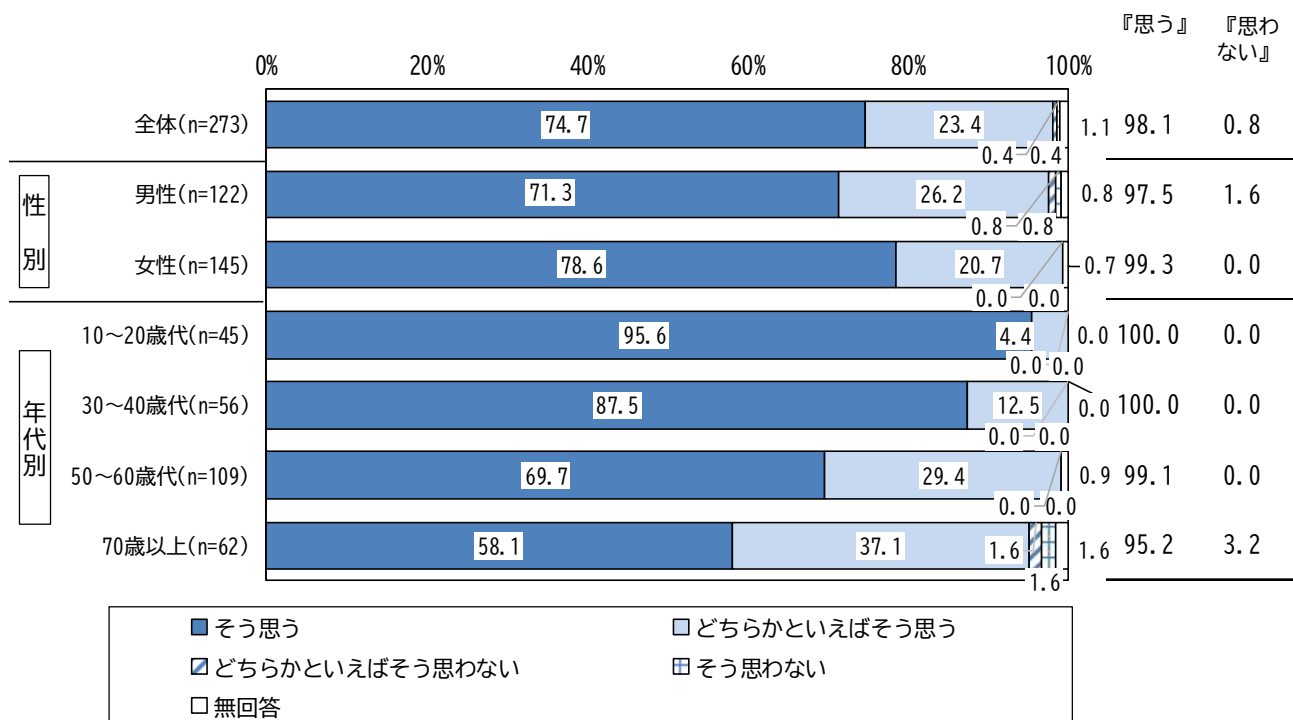


② 父親と母親は分担・協力し合って、ともに子育てに取り組んだ方がよい

「そう思う」が74.7%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が23.4%、「どちらかといえばそう思わない」が0.4%、「そう思わない」が0.4%となっています。

性別でみると、男女ともに「そう思う」が最も高くなっていますが、その割合は女性が男性を上回ります（7.3ポイント差）。

年代別でみると、いずれの年代も「そう思う」が最も高くなっているものの、「どちらかといえばそう思う」は年代が上がるほど高くなる傾向にあり、70歳以上では3割後半となっています。

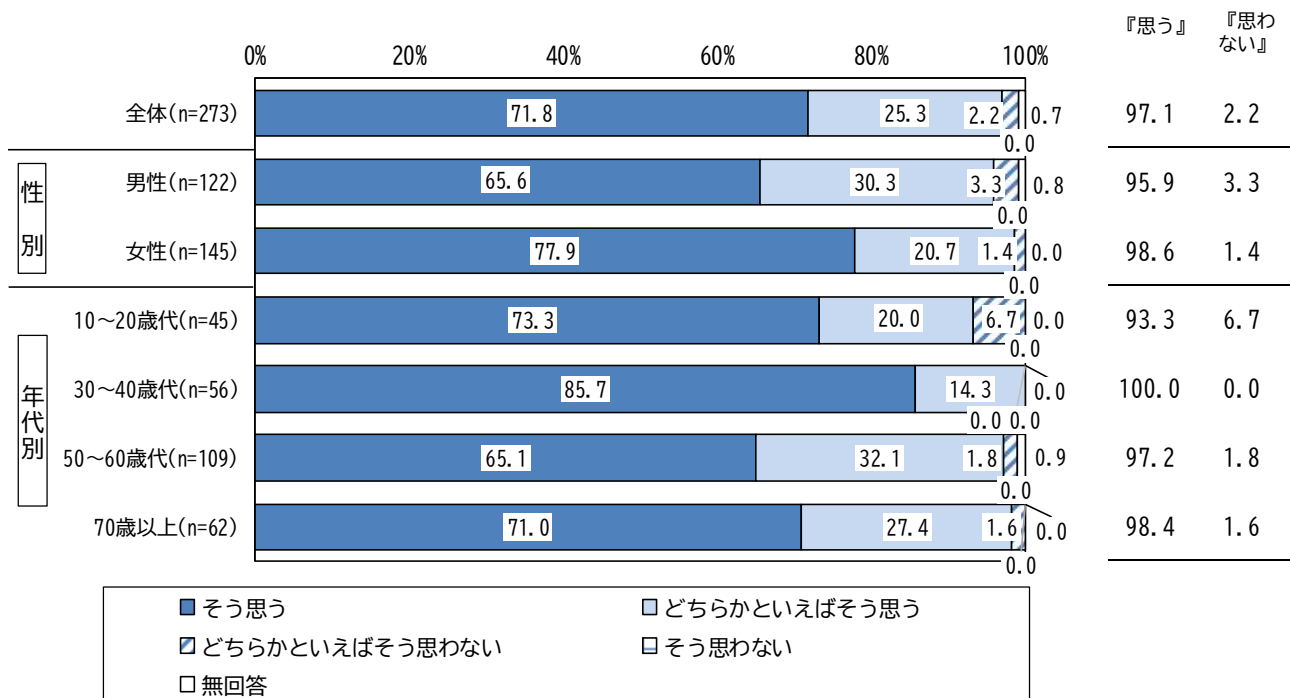


③ 男の子も女の子も性別ではなく、それぞれの個性や能力に合った育て方をした方がよい

「そう思う」が71.8%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が25.3%、「どちらかといえばそう思わない」が2.2%となっています。

性別でみると、男女ともに「そう思う」が最も高いものの、その割合は女性が男性を上回ります（12.3ポイント差）。

年代別でみると、いずれの年代も「そう思う」が最も高くなっていますが、特に30～40歳代で8割半ばと他の年代を上回ります。

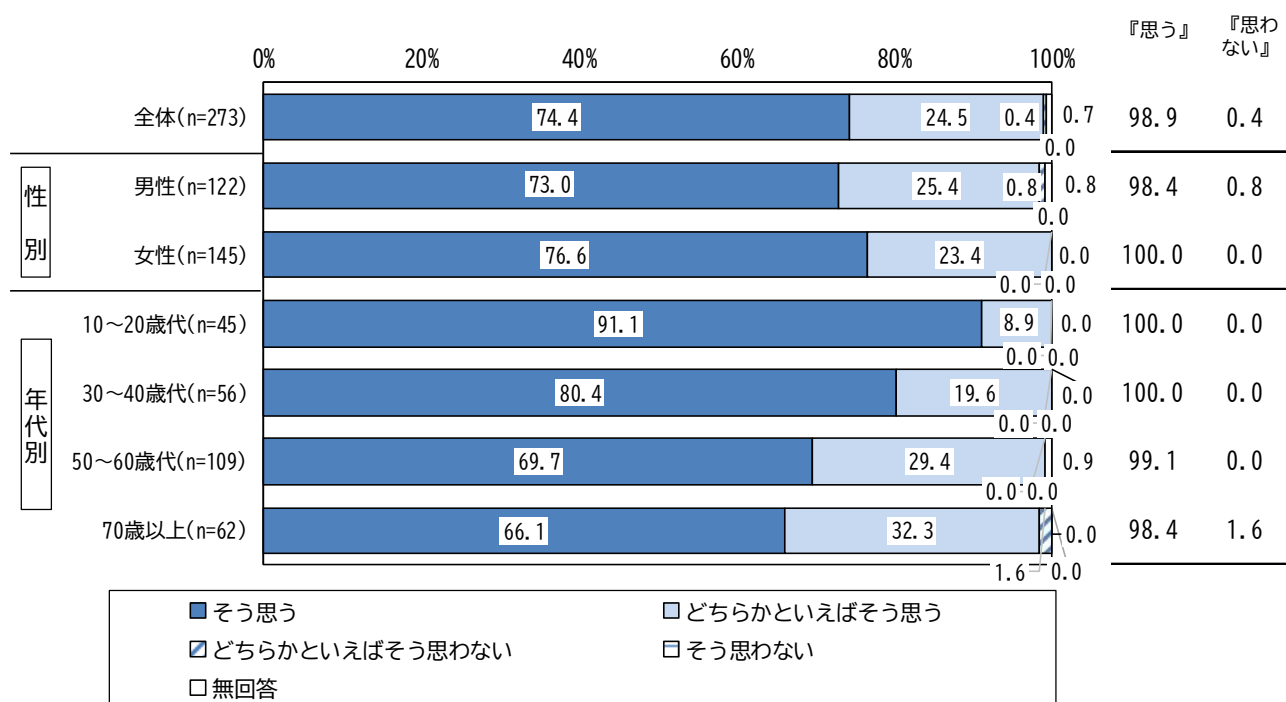


④ 掃除・洗濯・料理などの家事は、男女を問わず身に付けさせた方がよい

「そう思う」が74.4%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が24.5%、「どちらかといえばそう思わない」が0.4%となっています。

性別でみると、男女ともに「そう思う」が最も高くなっており、差は見られません。

年代別でみると、いずれの年代も「そう思う」が最も高くなっていますが、特に10～20歳代で約9割と他の年代を上回ります。



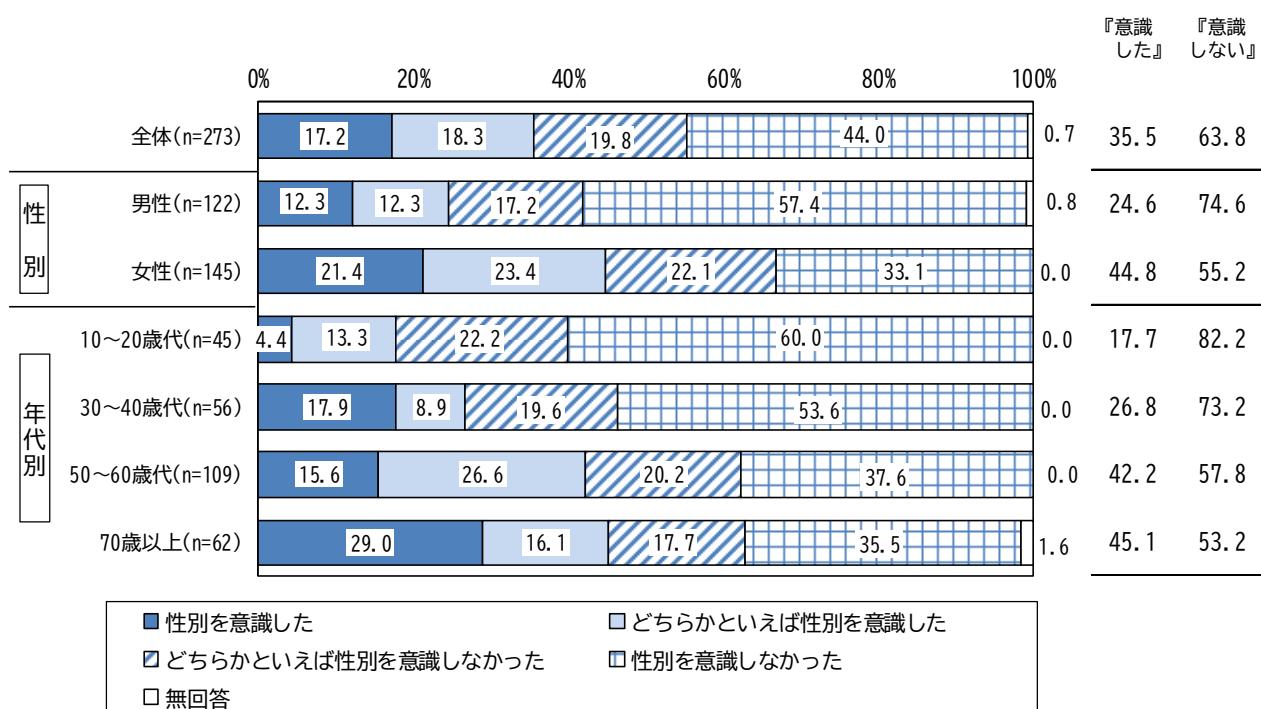
(2) 進路や職業の選択における性別の意識

問 10 あなたは、進路や職業選択の際に性別を意識しましたか。(1つに○)

「性別を意識しなかった」が44.0%で最も高く、「どちらかといえば性別を意識しなかった」(19.8%)と合わせた『意識しない』は63.8%となっています。反対に、「どちらかといえば性別を意識した」(18.3%)と「性別を意識した」(17.2%)を合わせた『意識した』は35.5%となっています。

性別でみると、男性は「性別を意識しなかった」が57.4%と最も高いのに対し、女性はいずれの選択肢も2割～3割台であるなど、回答が拮抗し、『意識した』は男性を大きく上回ります(20.2ポイント差)。

年代別でみると、いずれの年代も「性別を意識しなかった」が最も高くなっていますが、10～20 最大は8割前半、30～40 歳代は7割前半であるなど、若い世代ほど高い傾向にあります。それと符号するように、『意識した』は年代が上がるほど高い傾向にあります。



4. 用語などの認知度について

(1) 男女共同参画に関する用語や法律、町の実施する取組等の認知

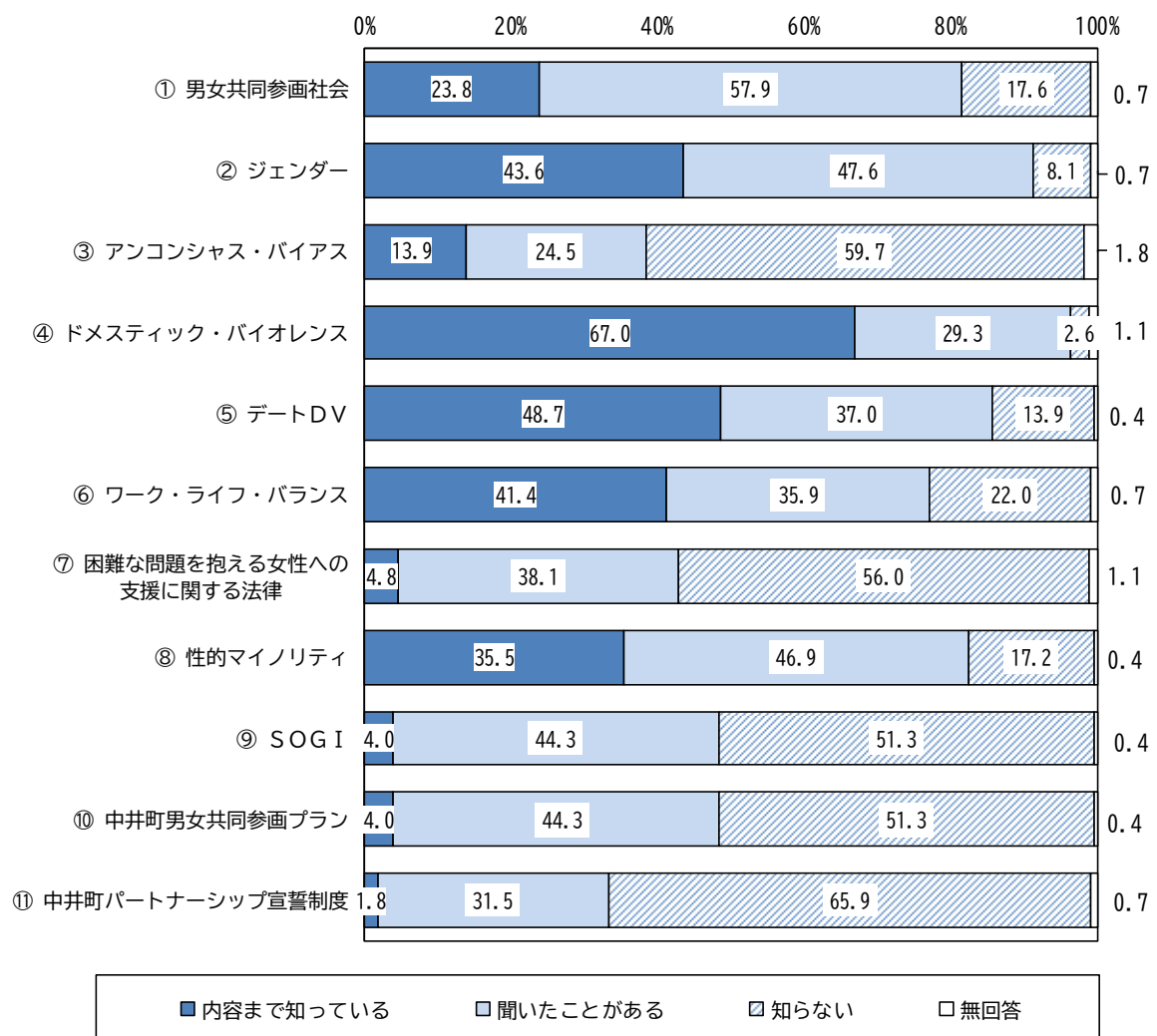
問11 あなたは、次にあげる用語や法律、町の実施する取組について知っていますか。
(それぞれ1つに○)

男女共同参画に関する用語や町の事業の等の認知度について、「内容まで知っている」は、＜④ドメスティック・バイオレンス＞67.0%が最も高く、次いで＜⑤デートDV＞48.7%、＜②ジェンダー＞43.6%などとなっています。

「聞いたことがある」は、＜①男女共同参画社会＞の57.9%が最も高く、＜②ジェンダー＞47.6%、＜⑧性的マイノリティ＞46.9%、＜⑨SOGI＞44.3%、＜⑩中井町男女共同参画プラン＞44.3%などで4割を超えています。

また、「知らない」は、＜⑪中井町パートナーシップ宣誓制度＞や＜③アンコンシャス・バイアス＞で高くなっています。

【全体の結果】



【用語解説】

①男女共同参画社会

男女共同参画社会基本法においては、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」と規定されている。

②ジェンダー

人間は生まれつきの生物学的性別（セックス/SEX）がある。一方、社会通念や習慣の中には、社会によって作り上げられた「男性像」「女性像」があり、このような男性、女性の別を「ジェンダー（社会的・文化的な性差）」という。

③アンコンシャス・バイアス

「無意識の思い込み」などと呼ばれる。これまでの経験や見聞きしてきたことなどから生み出され、誰にでもありうるもの。

気付かないまましていると可能性を狭めてしまったり、誰かを傷つけてしまう場合がある。

④ドメスティック・バイオレンス

配偶者・パートナー関係にある、又はあった者から振るわれる暴力をいい、身体的暴力に限らず、精神的、経済的、性的等あらゆる形の暴力が含まれる。

⑤デートDV

交際中の恋人の間で起こる暴力のこと。殴る、蹴る等の身体的暴力のほか、相手を思いどおりに支配しようとする態度や行為も含む。

⑥ワーク・ライフ・バランス

仕事と仕事以外の生活（家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など）が、希望するバランスで展開できる状態。「仕事の充実」と「仕事以外の充実」のバランスが保たれると、好循環をもたらし、多様性に富んだ活力ある社会を創出するため、その基盤として極めて重要とされる。

⑦困難な問題を抱える女性への支援に関する法律

被虐待経験や障がいによる生きづらさ、性暴力被害や生活困窮など、近年の女性をめぐる課題が複雑化・多様化・複合化していることを受け、このような多様な問題を抱える女性に対する「支援」を中心に据え、「女性の福祉」や「人権の尊重・擁護」を目的に、女性が安心して、自立して暮らせる社会の実現を目指し、令和4年5月に新たに制定された法律（令和6年4月1日施行）。

⑧性的マイノリティ

生物学的な性（からだの性）と性の自己意識（こころの性）が一致しない人、性的指向（人の恋愛・性愛がどういう対象に向かうのかを示す概念）が、同性や両性（男女両方）に向いている人などがいる。社会的には少数派となるそうした人たちのことを「性的マイノリティ」と呼ぶ。性的マイノリティを表す言葉の一つとして「LGBTQ+」等がある。

⑨SOGI

性的指向（好きになる性）と、性自認（自分がどんな性別だと思うかという認識）のこと。

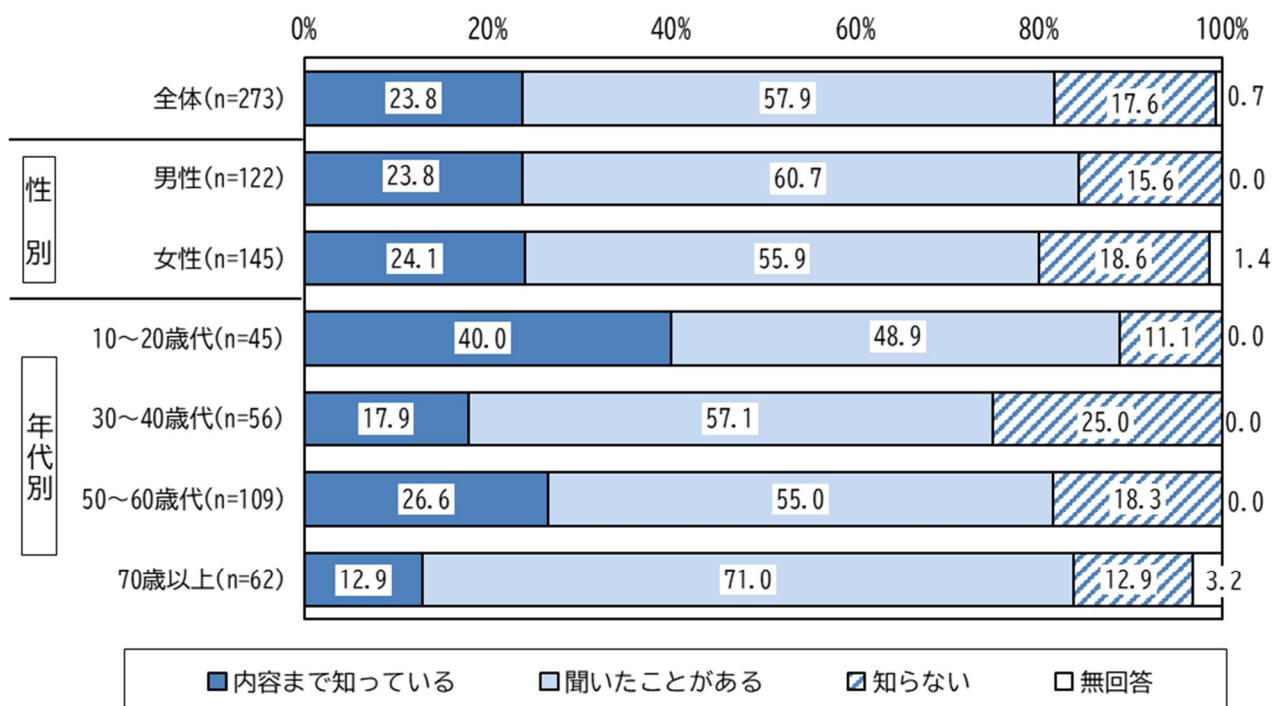
【性別・年代別の結果】

① 男女共同参画社会

「聞いたことがある」が57.9%で最も高く、次いで「内容まで知っている」が23.8%、「知らない」が17.6%となっています。

性別でみると、「聞いたことがある」が最も高く、差は見られません。

年代別にみると、いずれの年代も「聞いたことがある」が最も高くなっていますが、「内容まで知っている」は10～20歳代が4割と他の年代を上回る一方、70歳以上は1割前半にとどまります。

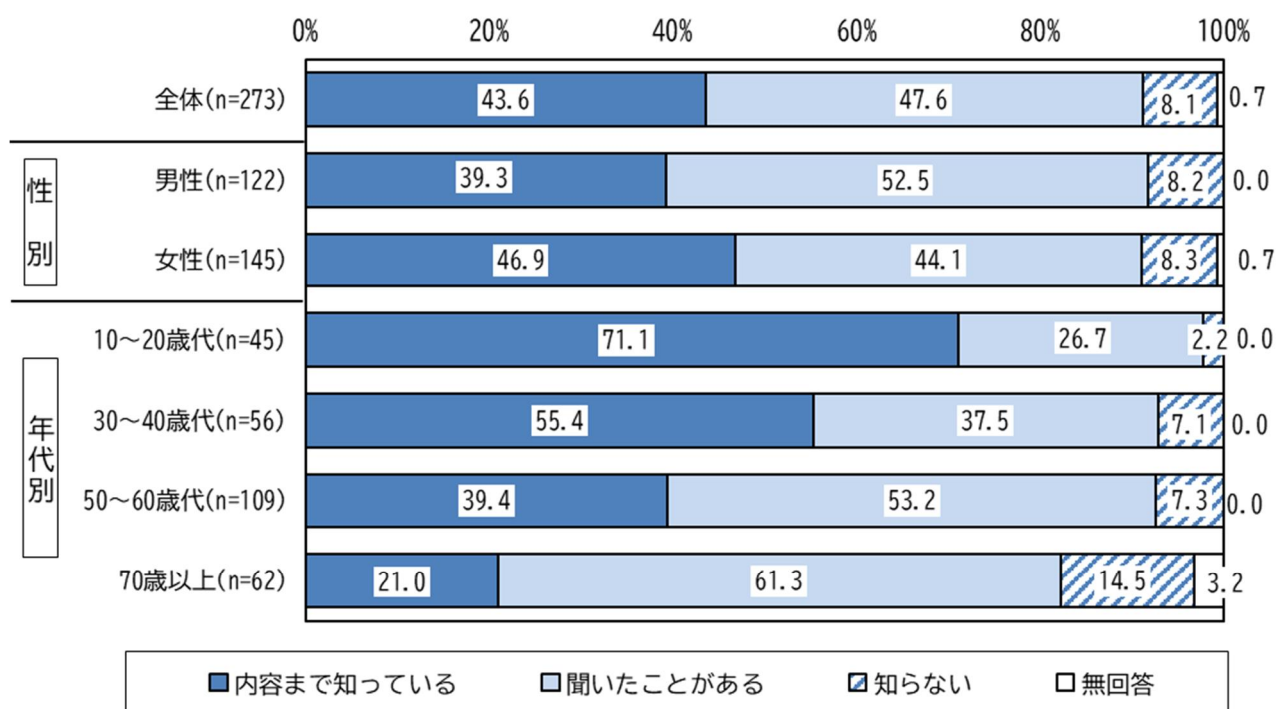


② ジェンダー（文化的・社会的な性差）

「聞いたことがある」が47.6%で最も高く、次いで「内容まで知っている」が43.6%、「知らない」が8.1%となっています。

性別でみると、「内容まで知っている」女性が男性を上回ります（7.6ポイント差）。

年代別にみると、「内容まで知っている」は若い世代ほど高い傾向にあります。

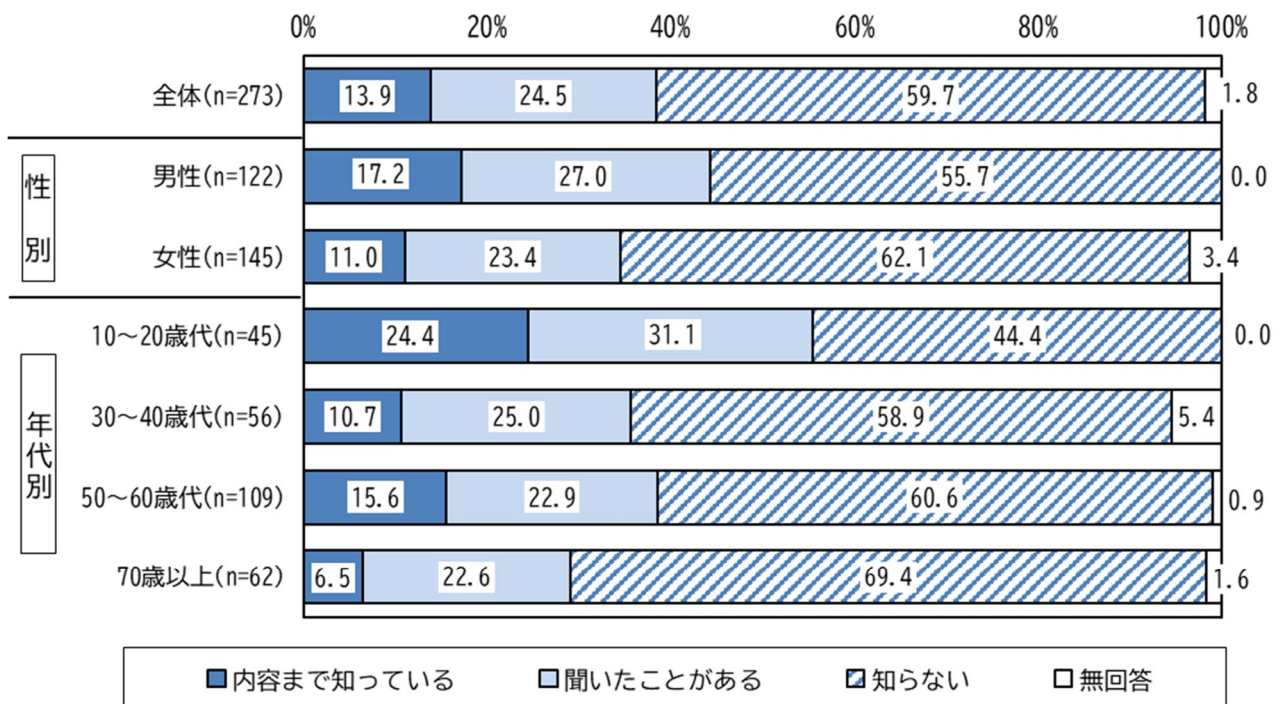


③ アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）

「知らない」が59.7%で最も高く、次いで「聞いたことがある」が24.5%、「内容まで知っている」が13.9%となっています。

性別でみると、男女ともに「知らない」が最も高く、「知らない」は女性が男性を上回ります（6.4ポイント差）。

年代別にみると、いずれの年代も「知らない」が最も高くなっていますが、10～20歳代では「内容まで知っている」や「聞いたことがある」割合が高く、他の年代を上回ります。

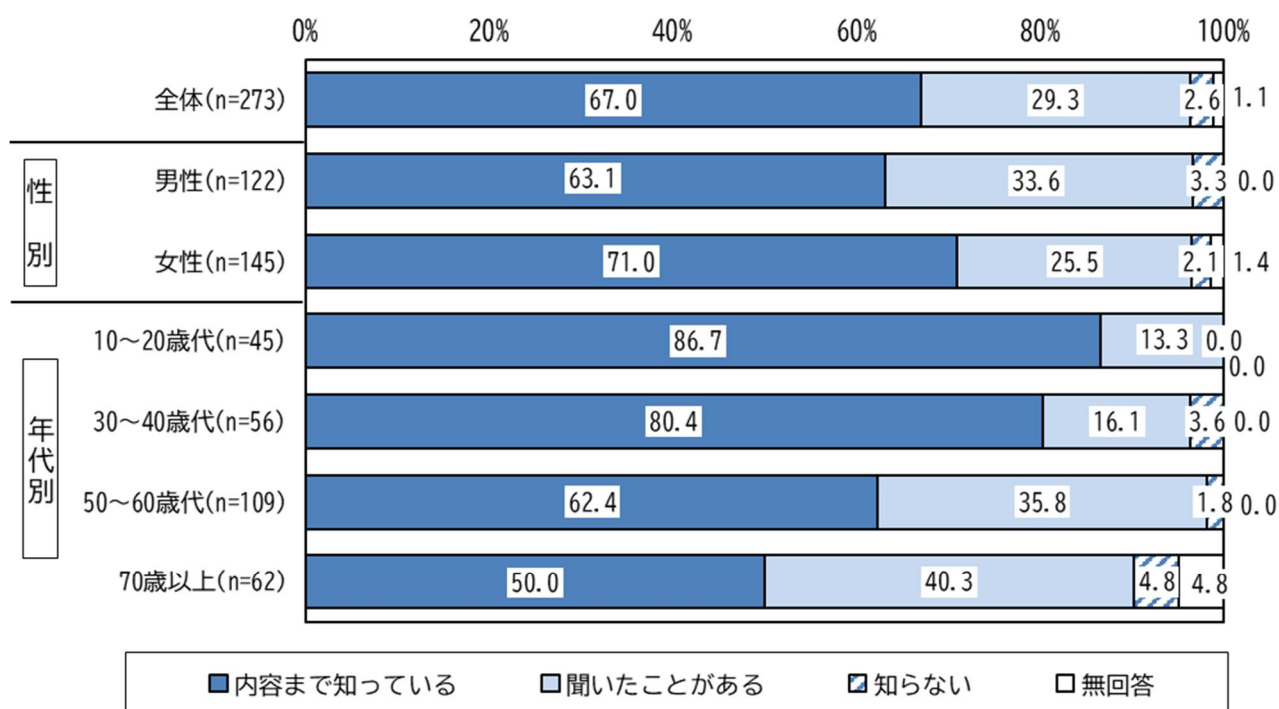


④ ドメスティック・バイオレンス（DV）

「内容まで知っている」が67.0%で最も高く、次いで「聞いたことがある」が29.3%、「知らない」が2.6%となっています。

性別でみると、男女ともに「内容まで知っている」が最も高くなっていますが、その割合は女性が男性を上回ります（7.9ポイント差）。

年代別にみると、いずれの年代も「内容まで知っている」が最も高くなっていますが、その割合は若い世代ほど高い傾向にあります。

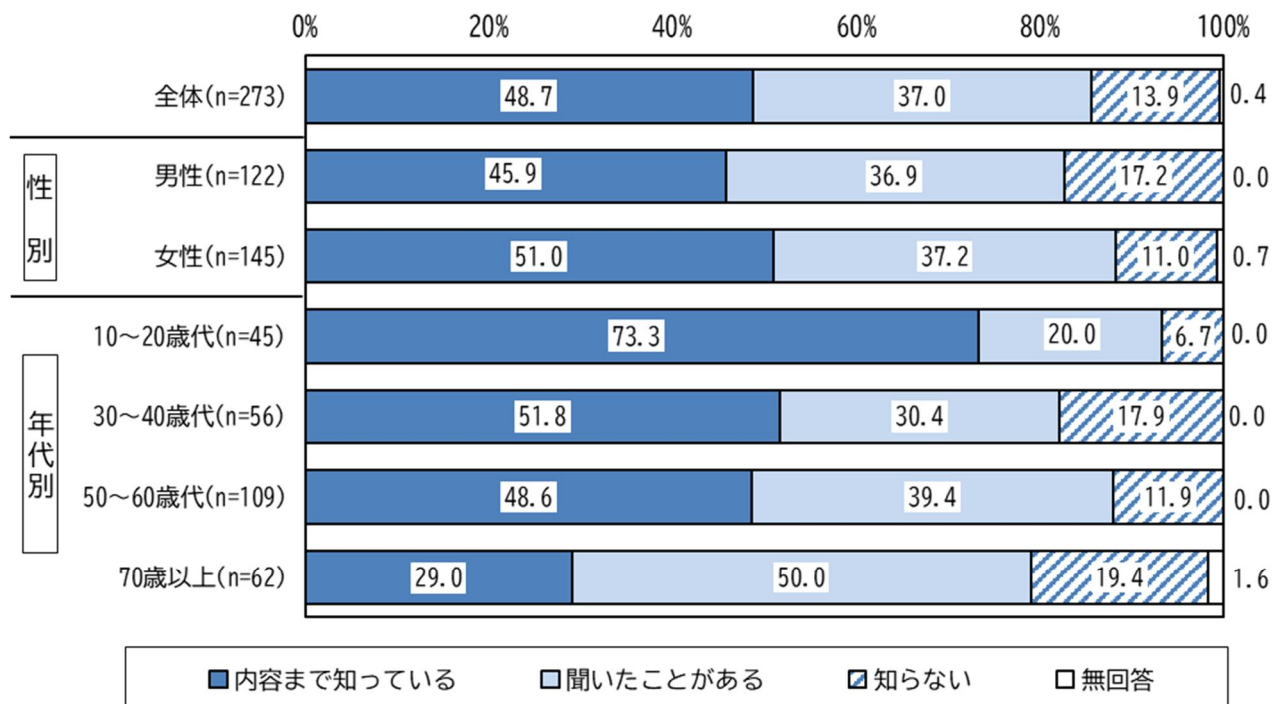


⑤ デートDV

「内容まで知っている」が48.7%で最も高く、次いで「聞いたことがある」が37.0%、「知らない」が13.9%となっています。

性別でみると、「内容まで知っている」女性は男性を上回ります（5.1ポイント差）。

年代別にみると、10～60歳代は「内容まで知っている」が最も高くなっていますが、70歳以上では半数が「聞いたことがある」としています。

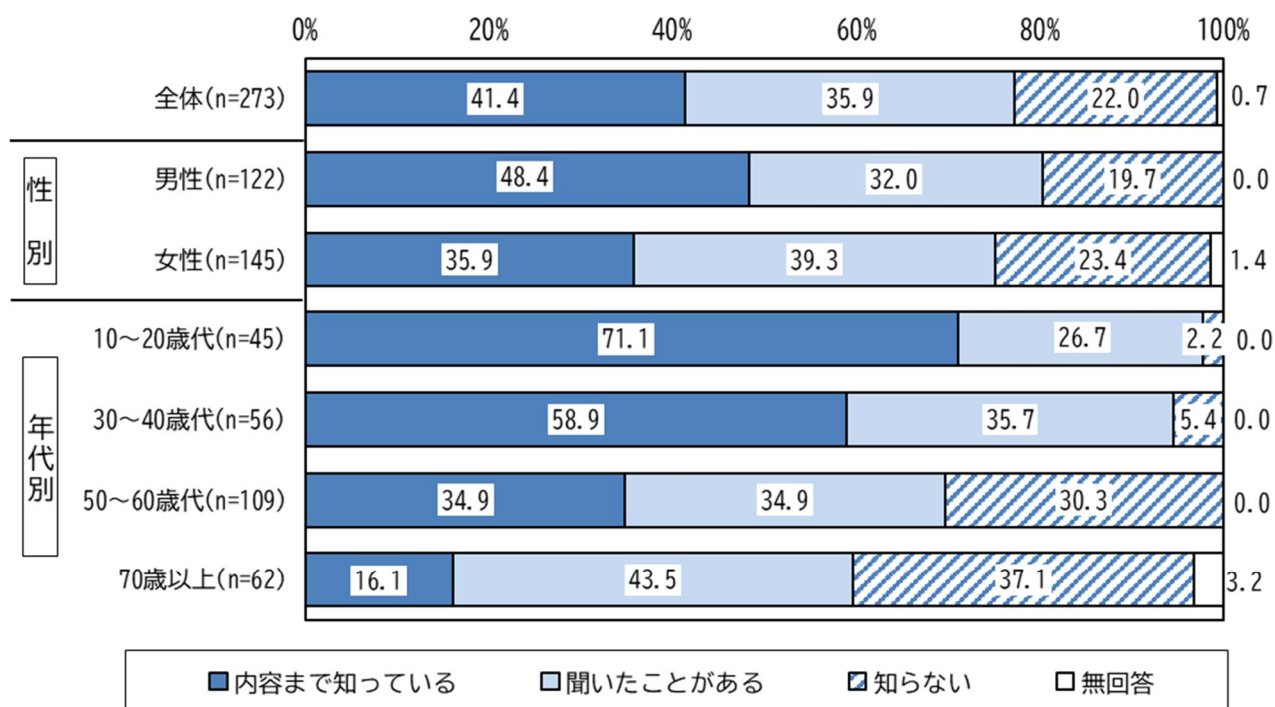


⑥ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

「内容まで知っている」が41.4%で最も高く、次いで「聞いたことがある」が35.9%、「知らない」が22.0%となっています。

性別でみると、「内容まで知っている」は男性が女性を上回ります（12.5ポイント差）。

年代別にみると「内容まで知っている」は10～20歳代が約7割と他の年代を大きく上回るなど、若い世代ほど高い傾向にあります。

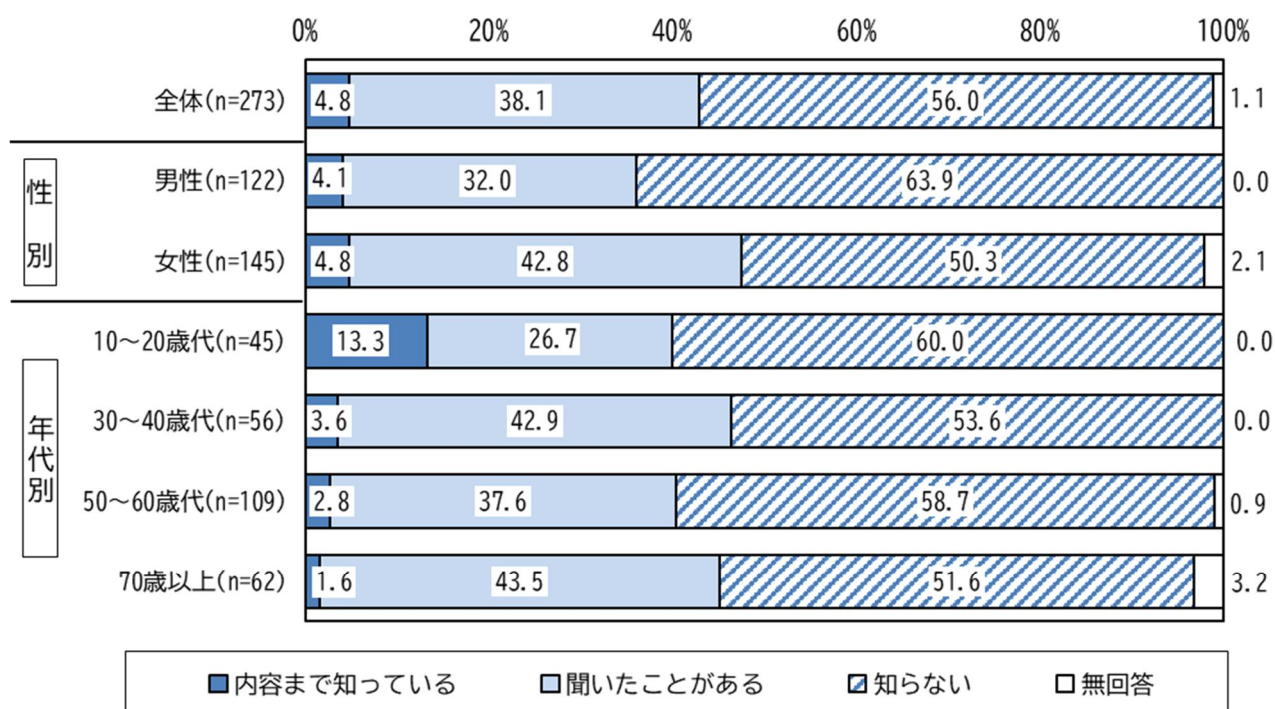


⑦ 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律

「知らない」が56.0%で最も高く、次いで「聞いたことがある」が38.1%、「内容まで知っている」が4.8%となっています。

性別でみると、男女ともに「知らない」が最も高く、男性が女性を上回ります（13.6 ポイント差）。

年代別にみると、いずれの年代でも「知らない」が最も高くなっている一方、10～20歳代の若い世代では1割前半が「内容まで知っている」としており、他の年代に比べてやや高くなっています。

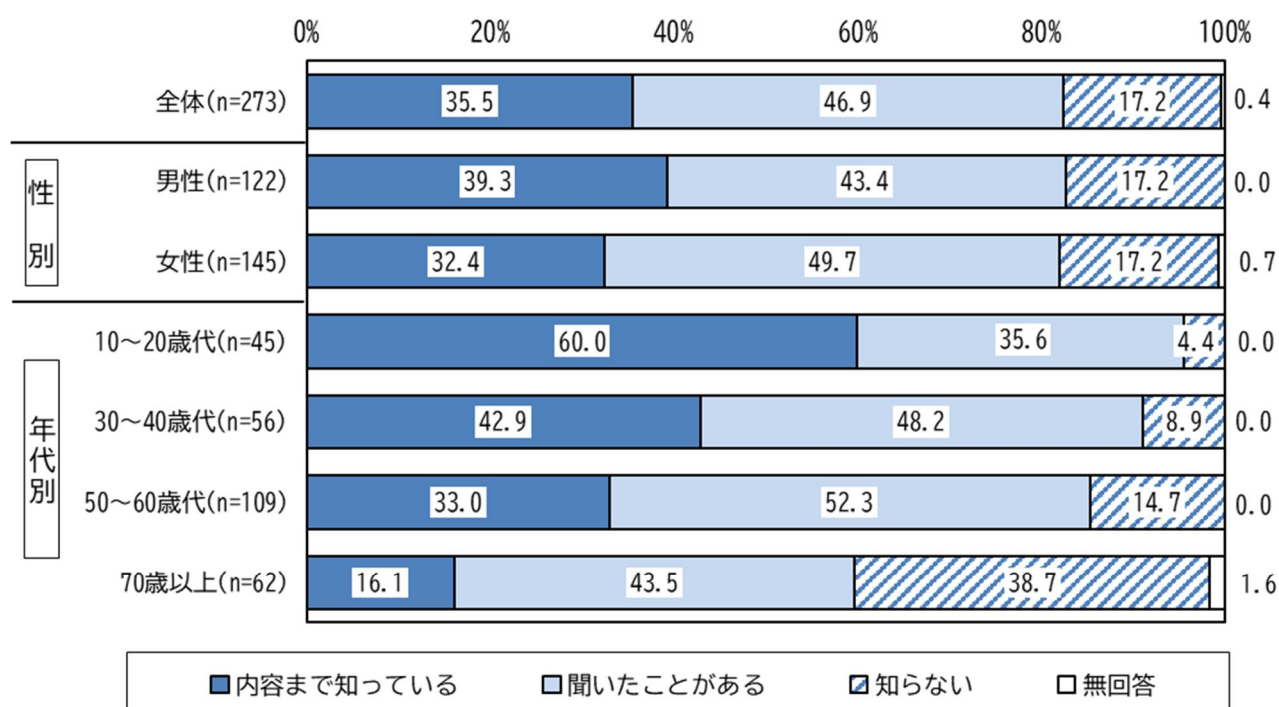


⑧ 性的マイノリティ（LGBTQ+）

「聞いたことがある」が46.9%で最も高く、次いで「内容まで知っている」が35.5%、「知らない」が17.2%となっています。

性別でみると、男女ともに「聞いたことがある」が最も高いものの、「内容まで知っている」は男性が女性を上回ります（6.9ポイント差）。

年代別にみると、「内容まで知っている」は10～20歳代が6割で最も高く、若い世代ほど高い傾向にあります。一方で、「知らない」は70歳以上で3割後半と他の年代を上回ります。

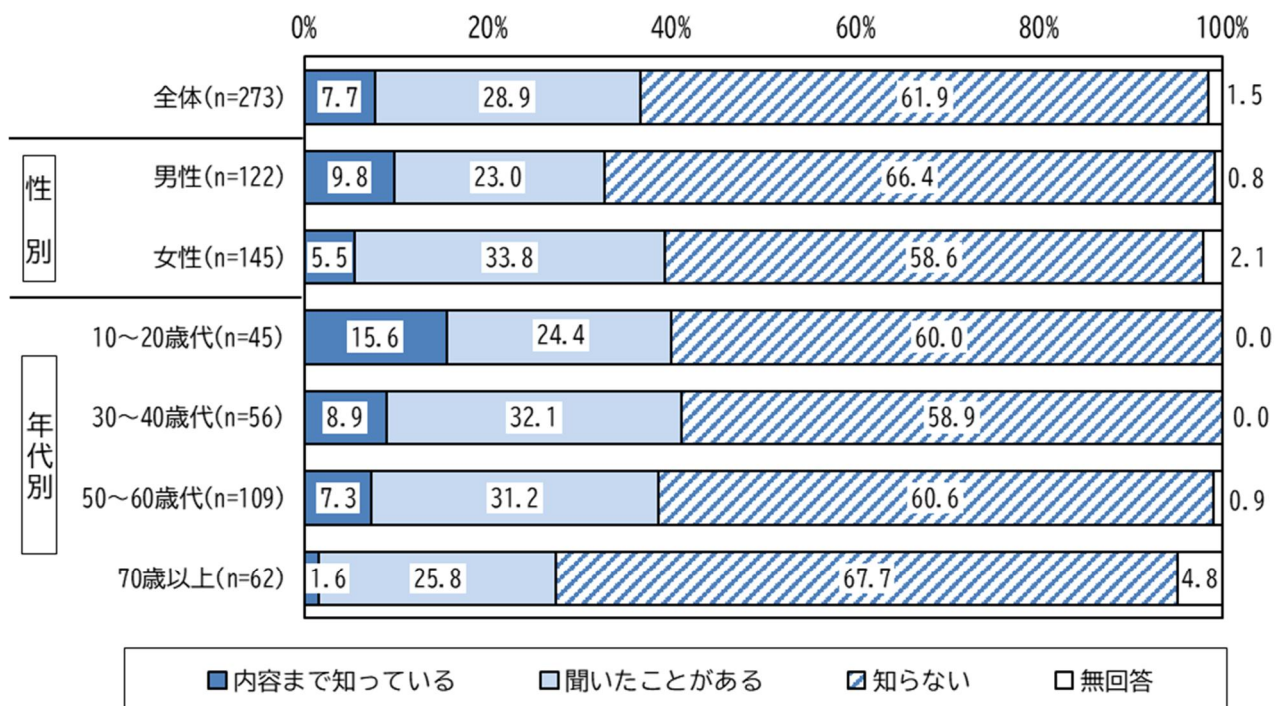


⑨ SOGI（性的指向と性自認）

「知らない」が61.9%で最も高く、次いで「聞いたことがある」が28.9%、「内容まで知っている」が7.7%となっています。

性別でみると、男女ともに「知らない」が最も高くなっていますが、「聞いたことがある」は、女性が男性を上回ります（10.8ポイント差）。

年代別にみると、いずれの年代も「知らない」が最も高いものの、「内容まで知っている」は、10～20歳代で1割半ばと他の年代を上回ります。

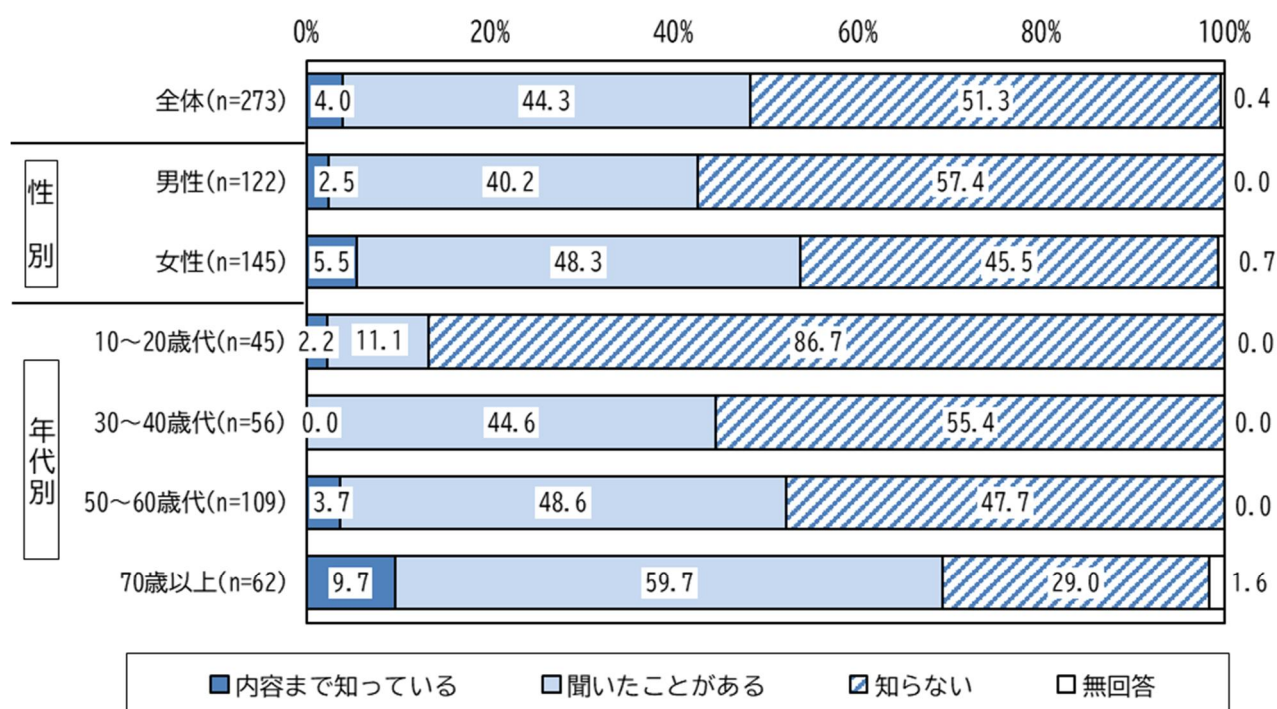


⑩ 中井町男女共同参画プラン

「知らない」が51.3%で最も高く、次いで「聞いたことがある」が44.3%、「内容まで知っている」が4.0%となっています。

性別でみると、男性は「知らない」が5割後半、女性は「聞いたことがある」が4割後半でそれぞれ最も高くなっています。

年代別にみると、10～40歳代は「知らない」、50歳以上は「聞いたことがある」が最も高くなっています。若い世代ほど「知らない」割合が高い傾向にあり、10～20歳代では8割以上と他の年代を大きく上回ります。

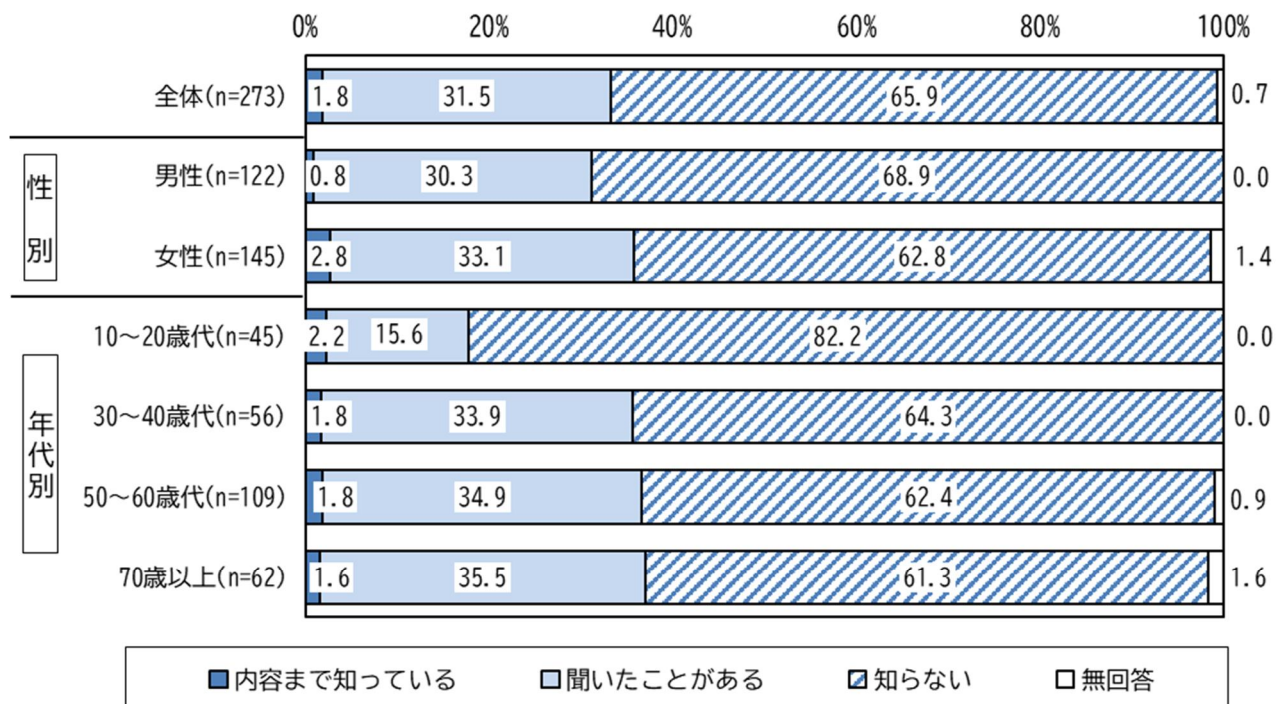


⑪ 中井町パートナーシップ宣誓制度

「知らない」が65.9%で最も高く、次いで「聞いたことがある」が31.5%、「内容まで知っている」が1.8%となっています。

性別でみると、男女ともに「知らない」が最も高く、差はみられません。

年代別にみると、いずれの年代も「知らない」が最も高くなっていますが、その割合は10～20歳代で8割前半と他の年代を大きく上回ります。



5. 男女がともに働きやすい就業環境について

(1) 女性が働くことについて

問 12 女性の働き方について、どのように思いますか。(1つに○)

「ずっと仕事を続ける方がよい」が 37.4%で最も高く、次いで「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったらパートタイムで仕事をもつ方がよい」が 15.4%、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったらフルタイムで仕事をもつ方がよい」が 14.3%となっています。

性別でみると、男女ともに「ずっと仕事を続ける方がよい」が最も高く、差はみられません。

年代別にみると、30～40 歳代を除き「ずっと仕事を続ける方がよい」が最も高くなっています。

		ずっと仕事を続ける方がよい	子どもができたら仕事をやめ、大きくなったらフルタイムで仕事をもつ方がよい	子どもができたら仕事をやめ、大きくなったらパートタイムで仕事をもつ方がよい	子どもができたら、仕事をやめる方がよい	結婚したら仕事をやめる方がよい	仕事をもらいたくない方がよい	その他	わからない	無回答
	全体(n=273)	37.4	14.3	15.4	1.1	0.4	0.4	18.3	11.7	1.1
性別	男性(n=122)	36.1	16.4	13.1	2.5	0.0	0.0	18.9	12.3	0.8
	女性(n=145)	39.3	12.4	17.9	0.0	0.7	0.0	17.2	11.0	1.4
年代別	10～20歳代(n=45)	37.8	11.1	13.3	2.2	0.0	0.0	20.0	15.6	0.0
	30～40歳代(n=56)	26.8	10.7	12.5	0.0	1.8	0.0	32.1	16.1	0.0
	50～60歳代(n=109)	45.0	17.4	13.8	0.9	0.0	0.0	16.5	6.4	0.0
	70歳以上(n=62)	33.9	14.5	22.6	1.6	0.0	0.0	8.1	14.5	4.8

■「その他」の具体的な内容

- ・本人の選択を尊重した働き方がよい
- ・それぞれの家庭の考え方によって異なる
- ・変動する家庭環境の中でその時折々に柔軟に対処する
- ・夫婦の事情に応じて話し合いをすることが大事だと思う
- ・夫婦間の事情が異なるので一概には答えられない
- ・保育所、病児保育の問題あり
- ・子どもができたら、子を育てる環境づくり（家庭や親戚、地域との協力体制等）を整えたら、仕事をしてもいいのではないかと。
- ・個々の事情があると思うので、全ての女性がこのような働き方をすべきという考え方に違和感を覚えます。
- ・ワーク・ライフ・バランスをとりながら柔軟になればいい
- ・今の制度では仕事をフルタイムで働き続けるしかない
- ・2（「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったらフルタイムで仕事をもつ方がよい」）がよいが、それが当たり前認められる、または当たり前選択できる社会であることが必要

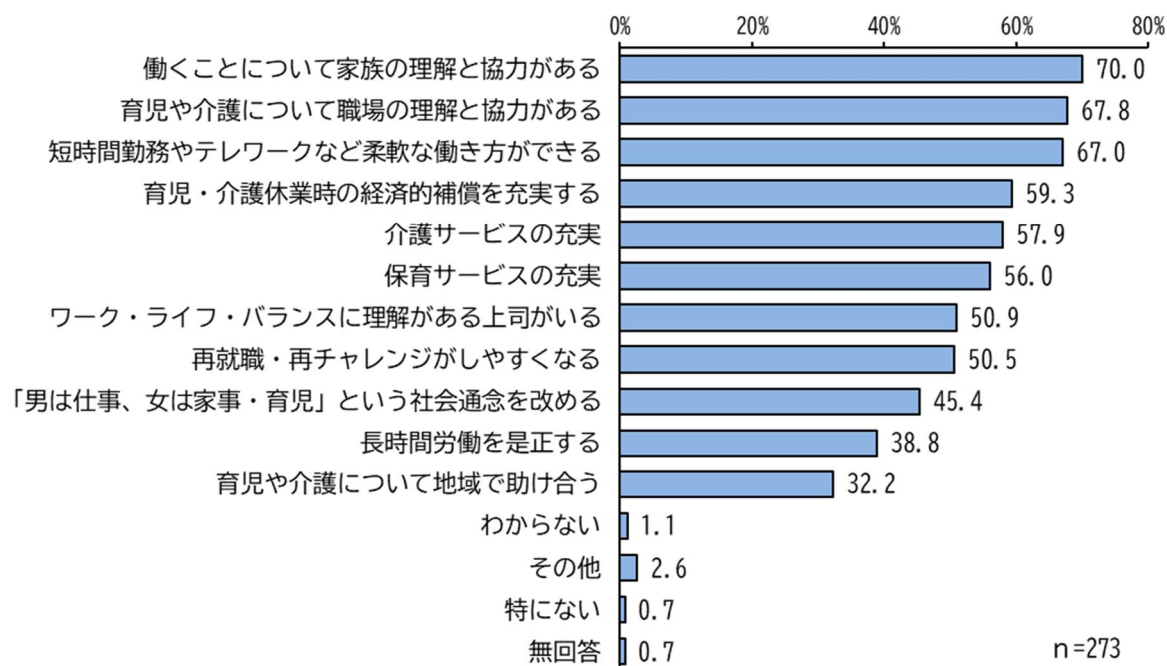
(2) すべての人が働きやすくなるために必要なこと

問 13 あなたは、性別にかかわらず、すべての人がともに働きやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「働くことについて家族の理解と協力がある」が 70.0%で最も高く、次いで「育児や介護について職場の理解と協力がある」が 67.8%、「短時間勤務やテレワークなど柔軟な働き方ができる」が 67.0%、「育児・介護休業時の経済的補償を充実する」が 59.3%、「介護サービスの充実」が 57.9%、「保育サービスの充実」が 56.0%となっています。

性別でみると、男女ともに「働くことについて家族の理解と協力がある」が最も高くなっています。「再就職・再チャレンジがしやすくなる」「『男は仕事、女は家事・育児』という社会通念を改める」は、女性が男性を大きく上回ります(各 16.1/15.4 ポイント差)。

年代別にみると、10～20 歳代と 30～40 歳代は「短時間勤務やテレワークなど柔軟な働き方ができる」が 7 割台、50～60 歳代は「育児や介護について職場の理解と協力がある」、70 歳以上は「働くことについて家族の理解と協力がある」が最も高くなっています。



		長時間労働を是正する	短時間勤務やテレワークなど柔軟な働き方ができる	ワーク・ライフ・バランスに理解がある上司がいる	働くことについて家族の理解と協力がある	育児・介護休業時の経済的補償を充実する	育児や介護について職場の理解と協力がある	保育サービスの充実	介護サービスの充実	育児や介護について地域で助け合う	再就職・再チャレンジがしやすくなる	「男は仕事、女は家事・育児」という社会通念を改める	わからない	その他	特にない	無回答
	全体(n=273)	38.8	67.0	50.9	70.0	59.3	67.8	56.0	57.9	32.2	50.5	45.4	1.1	2.6	0.7	0.7
性別	男性(n=122)	40.2	63.9	52.5	68.0	60.7	64.8	55.7	58.2	27.0	41.8	37.7	1.6	2.5	0.8	1.6
	女性(n=145)	37.2	70.3	49.0	72.4	58.6	71.7	56.6	57.9	35.9	57.9	53.1	0.7	2.1	0.7	0.0
年代別	10～20歳代(n=45)	37.8	73.3	71.1	53.3	60.0	57.8	60.0	53.3	31.1	46.7	48.9	0.0	2.2	2.2	0.0
	30～40歳代(n=56)	44.6	76.8	71.4	67.9	64.3	67.9	62.5	51.8	41.1	58.9	42.9	1.8	5.4	1.8	0.0
	50～60歳代(n=109)	34.9	67.9	44.0	73.4	62.4	75.2	54.1	61.5	23.9	52.3	49.5	0.9	2.8	0.0	0.9
	70歳以上(n=62)	41.9	53.2	30.6	77.4	50.0	62.9	51.6	61.3	40.3	43.5	38.7	1.6	0.0	0.0	1.6

(3) 育児休業・介護休業の取得意向について

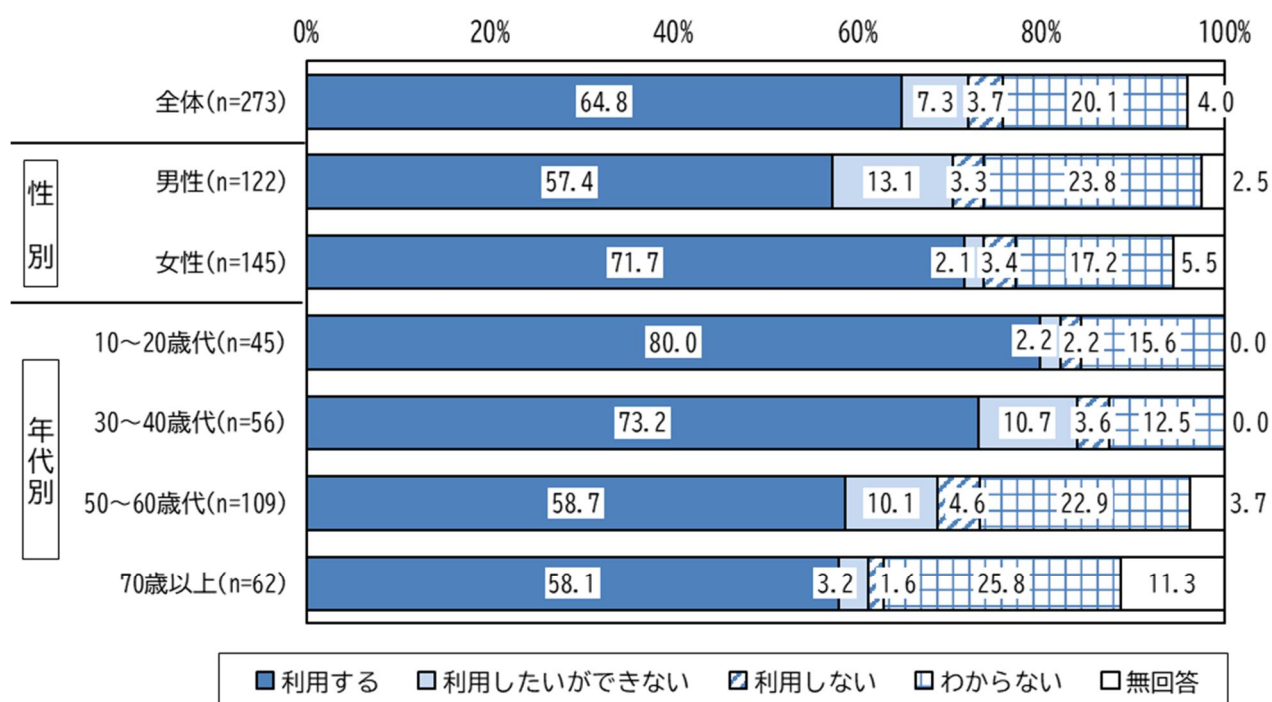
問 14 育児や介護を行うために、育児休業や介護休業を取得できる制度があります。あなたは、そうした休業が必要な状況になった時に利用しますか。(それぞれ1つに○)

① 育児休業

「利用する」が64.8%で最も高く、次いで「利用したいができない」が7.3%、「利用しない」が3.7%、「わからない」が20.1%となっています。

性別でみると、「利用する」は男女ともに最も高くなっていますが、「利用したいができない」は、男性が女性を上回ります(11.0ポイント差)。

年代別にみると、いずれの年代も「利用する」が最も高く、10～20歳代で8割、30～40歳代で約7割である一方で、50歳以上では5割後半とやや低くなっています。

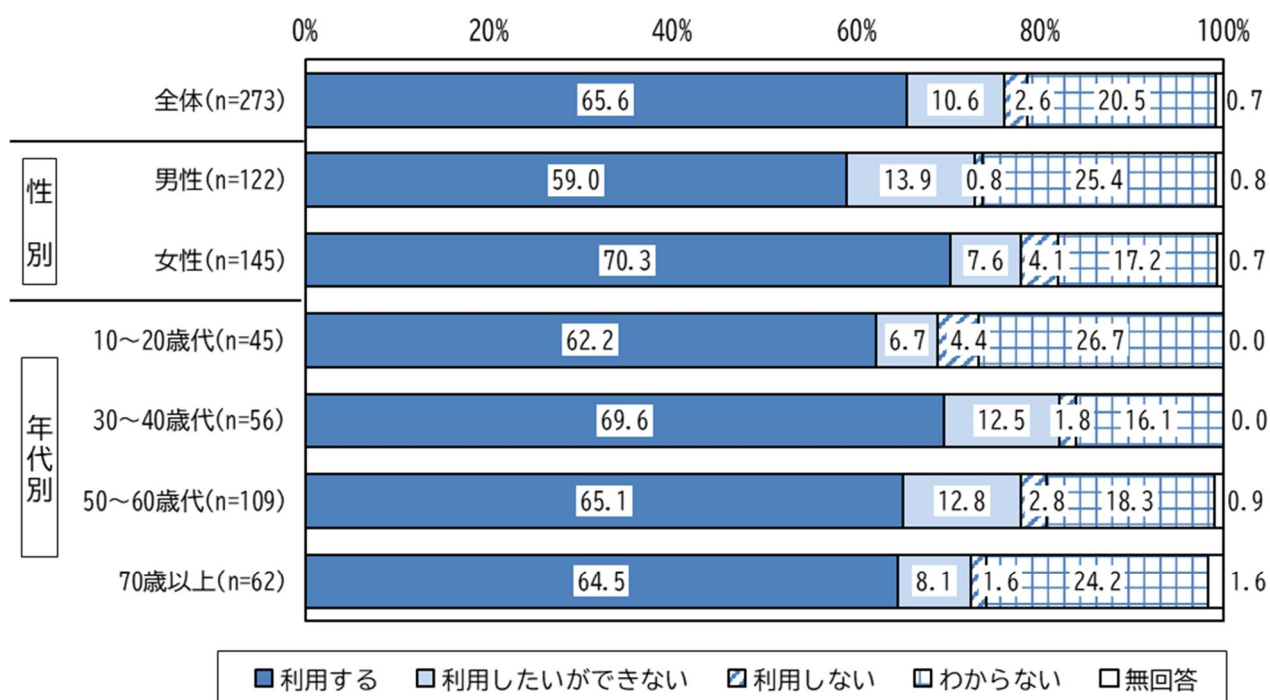


② 介護休業

「利用する」が65.6%で最も高く、次いで「利用したいができない」が10.6%、「利用しない」が2.6%、「わからない」が20.5%となっています。

性別でみると、「利用する」は男女ともに最も高くなっていますが、その割合は女性が男性を上回ります（11.3ポイント差）。

年代別にみると、いずれの年代も「利用する」が最も高いものの、30～60歳代では「利用したいができない」が1割前半とやや高くなっている。



6. 防災対策における男女参画について

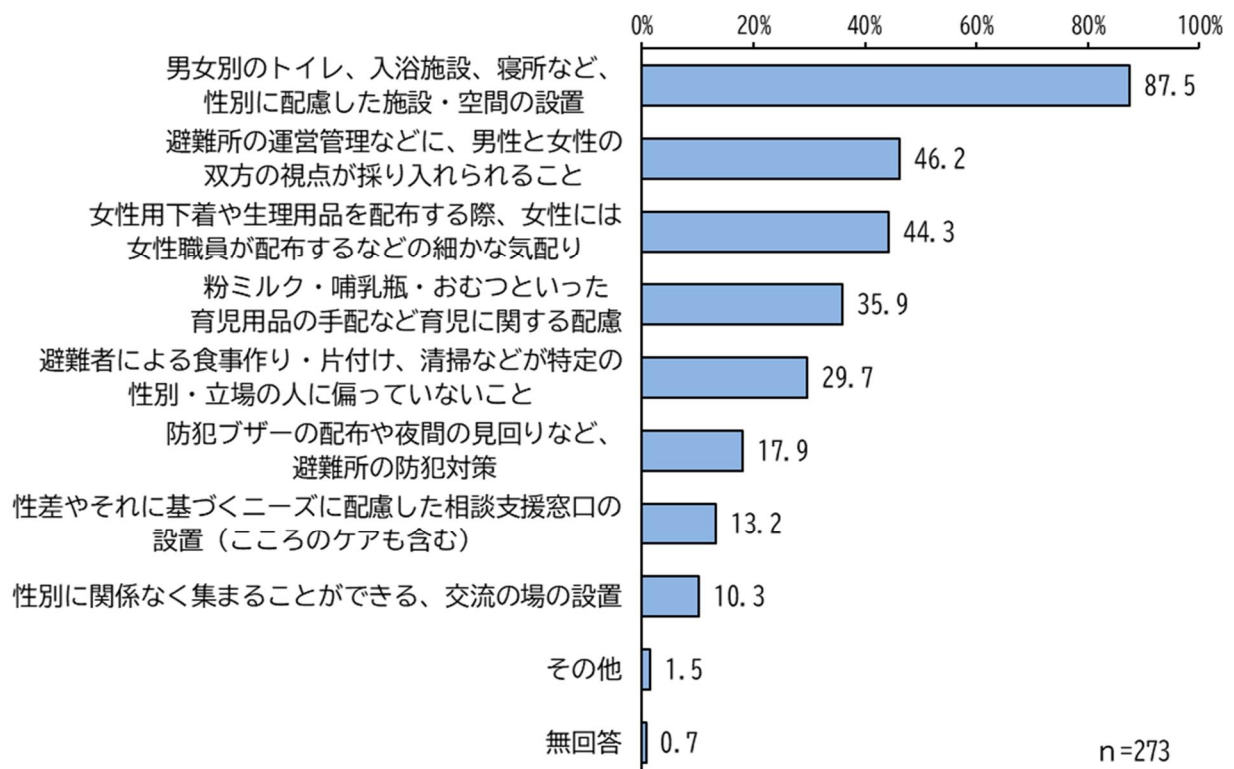
(1) 男女共同参画の視点から特に必要な避難所での支援や配慮

問 15 災害時の緊急避難所において、男女共同参画の視点から特に必要と思われる支援や配慮は何ですか。(3つまでに○)

「男女別のトイレ、入浴施設、寝所など、性別に配慮した施設・空間の設置」が 87.5%で最も高く、次いで「避難所の運営管理などに、男性と女性の双方の視点が採り入れられること」が 46.2%、「女性用下着や生理用品を配布する際、女性には女性職員が配布するなどの細かな気配り」が 44.3%、「粉ミルク・哺乳瓶・おむつといった育児用品の手配など育児に関する配慮」が 35.9%、「避難者による食事作り・片付け、清掃などが特定の性別・立場の人に偏っていないこと」が 29.7%、「防犯ブザーの配布や夜間の見回りなど、避難所の防犯対策」が 17.9%となっています。

性別でみると、「性別に関係なく集まることができる、交流の場の設置」は男性が女性を、「男女別のトイレ、入浴施設、寝所など、性別に配慮した施設・空間の設置」は女性が男性をそれぞれ上回ります（各 10.1/8.1 ポイント差）。

年代別にみると、いずれの年代も「男女別のトイレ、入浴施設、寝所など、性別に配慮した施設・空間の設置」が最も高くなっています。そのほか 10～20 歳代は「女性用下着や生理用品を配布する際、女性には女性職員が配布するなどの細かな気配り」、30～40 歳代は「粉ミルク・哺乳瓶・おむつといった育児用品の手配など育児に関する配慮」、50～60 歳代は「避難所の運営管理などに、男性と女性の双方の視点が採り入れられること」、70 歳以上は「避難者による食事作り・片付け、清掃などが特定の性別・立場の人に偏っていないこと」の割合がそれぞれ他の年代に比べ高くなっています。



		男女別のトイレ、入浴施設、 寝所など、性別に配慮した施 設・空間の設置	児に関する配慮	粉ミルク・哺乳瓶・おむつと いった育児用品の手配など育 児に関する配慮	女性用下着や生理用品を配布 する際、女性には女性職員が 配布するなどの細かな気配り	性差やそれに基づくニーズに 配慮した相談支援窓口の設置 (こころのケアも含む)	避難所の運営管理などに、男 性と女性の双方の視点が採り 入れられること	性別に関係なく集まること ができる、交流の場の設置	防犯ブザーの配布や夜間の見 回りなど、避難所の防犯対策	避難者による食事作り・片付 け、清掃などが特定の性別・ 立場の人に偏っていないこと	その他	無回答
	全体(n=273)	87.5	35.9	44.3	13.2	46.2	10.3	17.9	29.7	1.5	0.7	
性別	男性(n=122)	83.6	36.9	41.8	12.3	46.7	15.6	16.4	29.5	0.8	0.8	
	女性(n=145)	91.7	35.2	46.2	13.8	47.6	5.5	17.9	30.3	1.4	0.7	
年代別	10～20歳代(n=45)	88.9	51.1	55.6	8.9	26.7	6.7	26.7	17.8	0.0	0.0	
	30～40歳代(n=56)	82.1	55.4	41.1	10.7	42.9	7.1	19.6	28.6	3.6	0.0	
	50～60歳代(n=109)	89.9	30.3	46.8	12.8	53.2	9.2	16.5	29.4	1.8	0.9	
	70歳以上(n=62)	87.1	16.1	33.9	19.4	51.6	17.7	12.9	40.3	0.0	1.6	

7. DV・デートDVについて

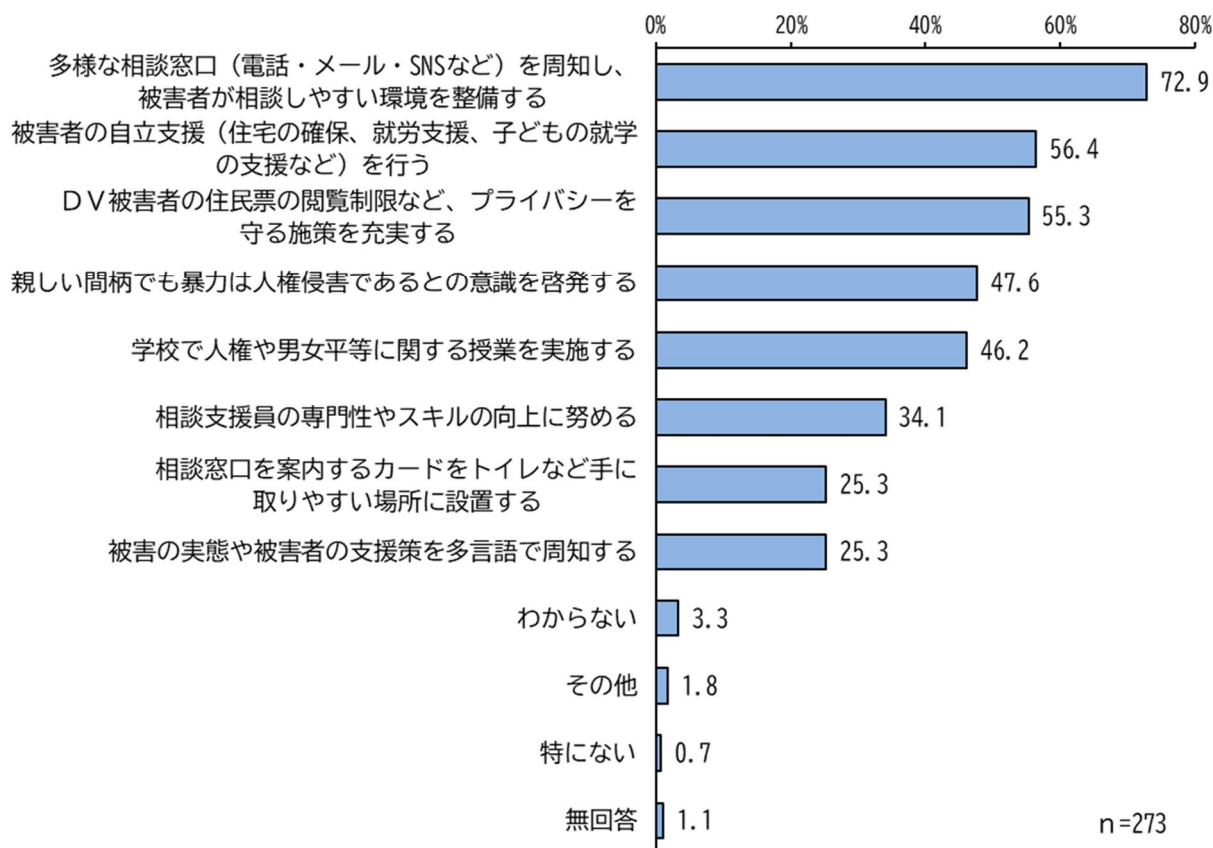
(1) DVやデートDVの対策や防止のために必要なこと

問 16 あなたは、配偶者などの間で起こる暴力（DV）やデートDVの対策や防止のために、どのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

「多様な相談窓口（電話・メール・SNS など）を周知し、被害者が相談しやすい環境を整備する」が72.9%で最も高く、次いで「被害者の自立支援（住宅の確保、就労支援、子どもの就学の支援など）を行う」が56.4%、「DV被害者の住民票の閲覧制限など、プライバシーを守る施策を充実する」が55.3%、「親しい間柄でも暴力は人権侵害であるとの意識を啓発する」が47.6%、「学校で人権や男女平等に関する授業を実施する」が46.2%、「相談支援員の専門性やスキルの向上に努める」が34.1%となっています。

性別でみると、「DV被害者の住民票の閲覧制限など、プライバシーを守る施策を充実する」「相談窓口を案内するカードをトイレなど手に取りやすい場所に設置する」は女性が男性を大きく上回ります（各13.7/13.0ポイント差）。

年代別にみると、いずれの年代も「多様な相談窓口（電話・メール・SNS など）を周知し、被害者が相談しやすい環境を整備する」が最も高くなっています。そのほか10～20歳代は「被害の実態や被害者の支援策を多言語で周知する」、30～40歳代は「DV被害者の住民票の閲覧制限など、プライバシーを守る施策を充実する」や「被害者の自立支援（住宅の確保、就労支援、子どもの就学の支援など）を行う」の割合がそれぞれ他の年代に比べ高くなっています。



		多様な相談窓口(電話・メール・SNSなど)を周知し、被害者が相談しやすい環境を整備	相談窓口を案内するカードをトイレなど手に取りやすい場所に設置する	DV被害者の住民票の閲覧制限など、プライバシーを守る施策を充実する	被害の実態や被害者の支援策を多言語で周知する	被害者の自立支援(住宅の確保、就労支援、子どもの就学の支援など)を行う	相談支援員の専門性やスキルの向上に努める	学校で人権や男女平等に関する授業を実施する	親しい間柄でも暴力は人権侵害であるとの意識を啓発する	わからない	その他	特にない	無回答
	全体(n=273)	72.9	25.3	55.3	25.3	56.4	34.1	46.2	47.6	3.3	1.8	0.7	1.1
性別	男性(n=122)	77.9	18.0	48.4	22.1	54.1	31.1	50.8	48.4	3.3	2.5	0.8	0.8
	女性(n=145)	70.3	31.0	62.1	28.3	59.3	35.9	42.1	47.6	3.4	1.4	0.0	1.4
年代別	10～20歳代(n=45)	68.9	26.7	51.1	35.6	55.6	31.1	44.4	44.4	4.4	2.2	0.0	0.0
	30～40歳代(n=56)	60.7	28.6	60.7	26.8	60.7	41.1	50.0	57.1	1.8	3.6	1.8	0.0
	50～60歳代(n=109)	81.7	26.6	59.6	24.8	56.0	37.6	47.7	54.1	3.7	1.8	0.9	0.9
	70歳以上(n=62)	71.0	19.4	46.8	17.7	54.8	24.2	40.3	30.6	3.2	0.0	0.0	3.2

8. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

（１）家事・育児・介護等の役割分担

問 17 は、配偶者・パートナーのいる方、今後ご結婚やパートナーと同居をお考えの方がお答えください。

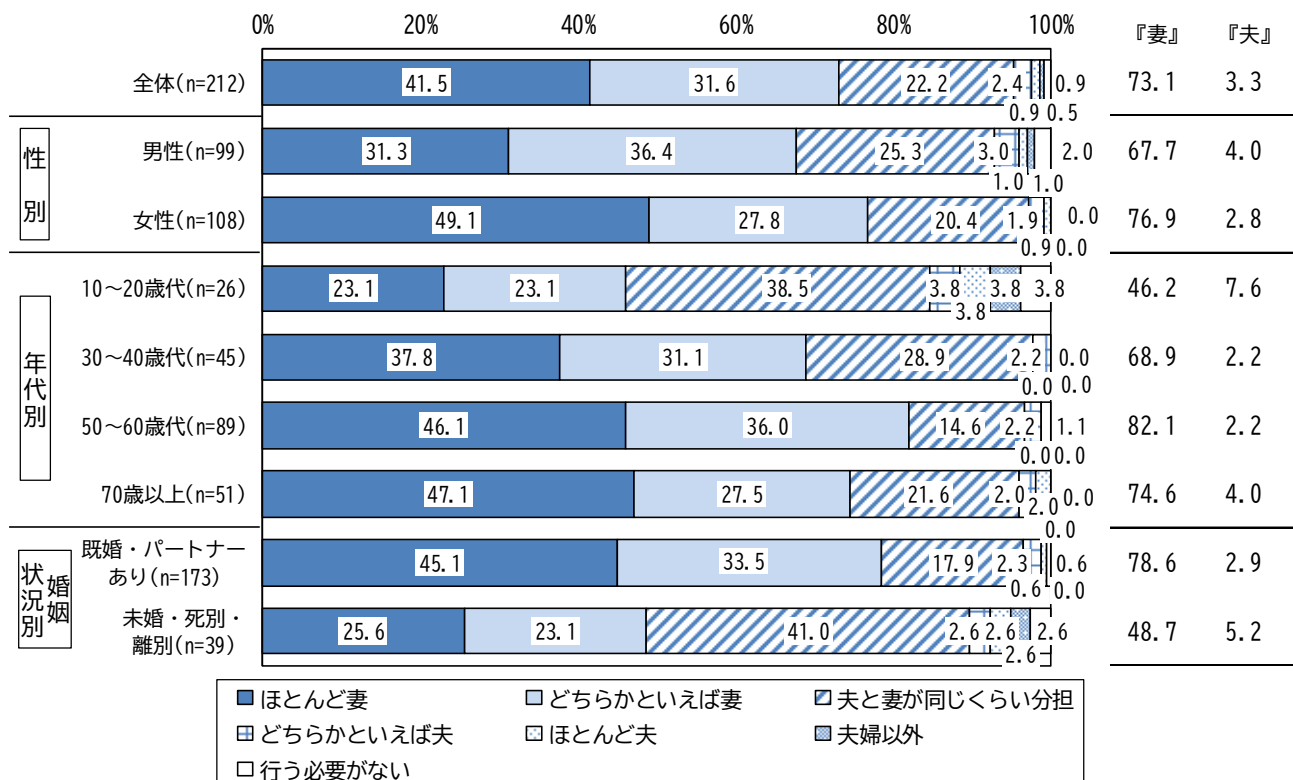
問 17 次にあげる事柄は、主にどなたがしていますか。現在結婚・同居していない方は、今後そうした状況になったときにどうしていきたいかをお答えください。
（それぞれ1つに○）

① 家事（炊事・洗濯・掃除など）

「ほとんど妻」が 41.5% で最も高く、次いで「どちらかといえば妻」が 31.6%、「夫と妻が同じくらい分担」が 22.2%、「どちらかといえば夫」が 2.4%、「ほとんど夫」が 0.9% となっています。

性別でみると、「ほとんど妻」は女性が男性を大きく上回ります（17.8 ポイント差）。また、「夫と妻が同じくらい分担」は男性が女性を上回っています（各 4.9 ポイント差）、年代別にみると、多くが未婚者である 10～20 歳代は「夫と妻が同じくらい分担」が 3 割後半で最も高くなっています。50 歳以上は「ほとんど妻」が 4 割台と高く、「ほとんど妻」と「どちらかといえば妻」を合わせた『妻』の割合も 50～60 歳代で 8 割前半、70 歳以上で 7 割半ばと高くなっています。

婚姻状況別にみると、既婚・パートナーありでは「ほとんど妻」が 4 割半ば、未婚・死別・離別は「夫と妻が同じくらい分担」が約 4 割で最も高くなっています。



※問 17 では、無回答を除く集計を行っています。また、婚姻の状況により回答の傾向が異なるため、「婚姻状況別」の集計結果を掲載しています。

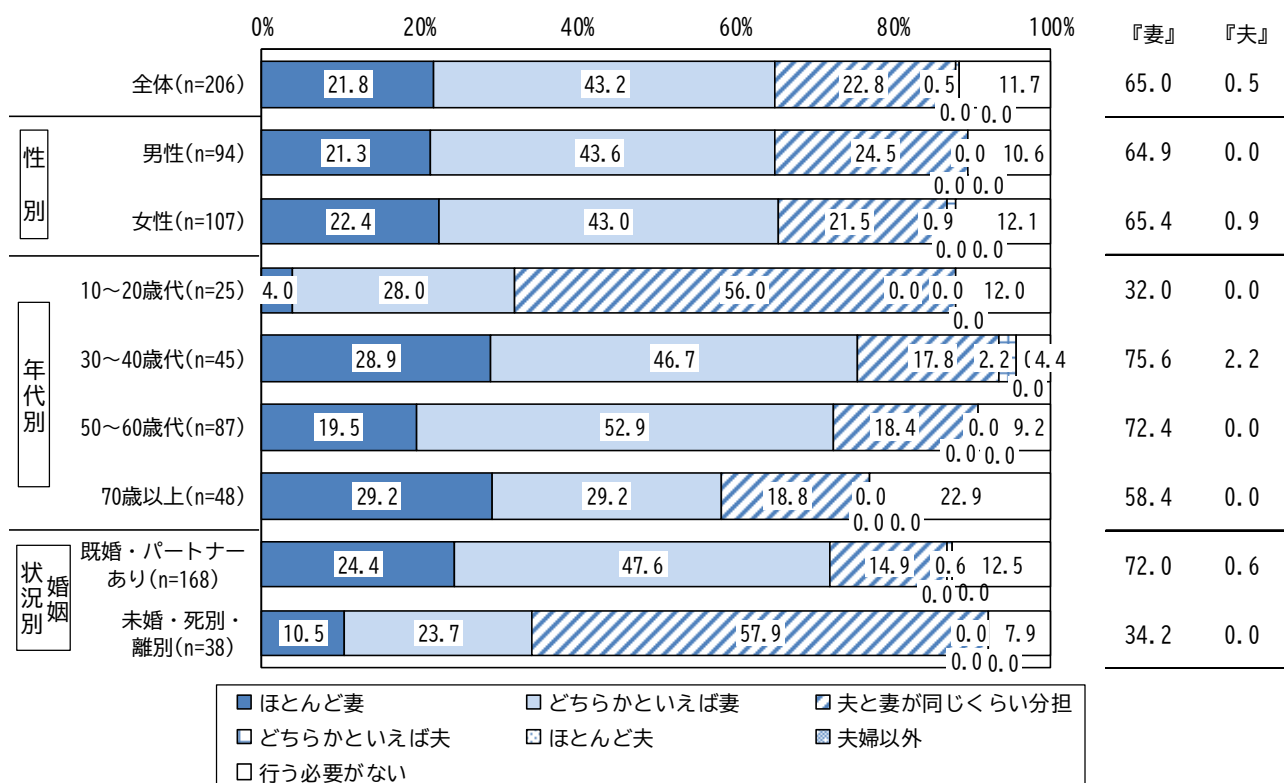
② 育児や子どもの教育

「どちらかといえば妻」が 43.2%で最も高く、次いで「夫と妻が同じくらい分担」が 22.8%、「ほとんど妻」が 21.8%、「どちらかといえば夫」が 0.5%となっています。

性別でみると、男女とも「どちらかといえば妻」が最も高く、差は見られません。

年代別にみると、多くが未婚者の 10～20 歳代は「夫と妻が同じくらい分担」が 5 割半ばと高くなっています。30～60 歳代は『妻』の割合が 7 割を超え、70 歳以上においても 5 割後半となっています。

婚姻状況別にみると、既婚・パートナーありでは『妻』が 7 割前半と未婚・死別・離別の 3 割半ばを大きく上回ります。一方、未婚・死別・離別では「夫と妻が同じくらい分担」が 5 割後半と最も高くなっています。



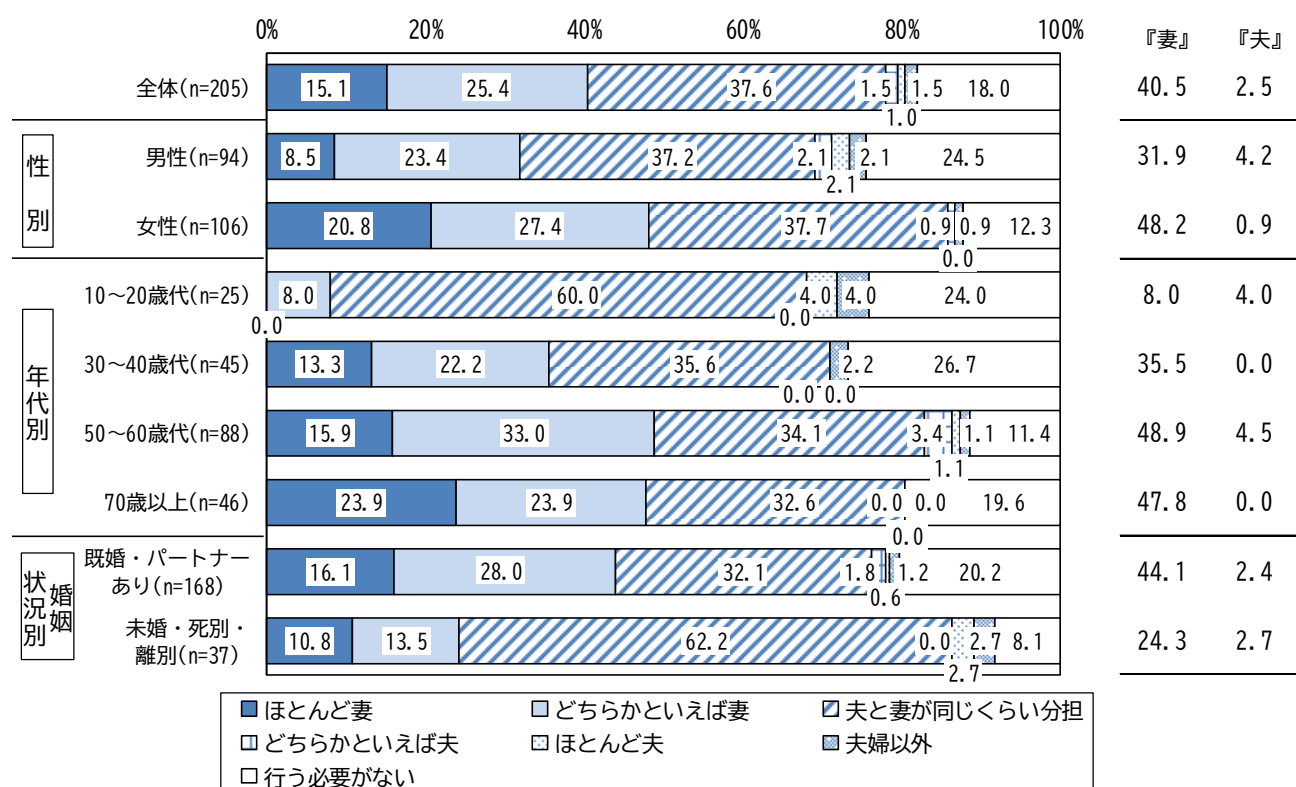
③ 親や家族の介護・看護

「夫と妻が同じくらい分担」が 37.6%で最も高く、次いで「どちらかといえば妻」が 25.4%、「行ふ必要がない」が 18.0%、「ほとんど妻」が 15.1%となっています。

性別でみると、男女とも「夫と妻が同じくらい分担」が最も高くなっていますが、「ほとんど妻」は女性が男性を上回ります（12.3 ポイント差）。

年代別にみると、多くが未婚者の 10～20 歳代は「夫と妻が同じくらい分担」が 6 割と他の年代を大きく上回ります。30 歳以上では、「ほとんど妻」が年代が上がるほど高くなっています。

婚姻状況別にみると、既婚・パートナーありと未婚・死別・離別いずれも「夫と妻が同じくらい分担」が高くなっているものの、その割合は未婚・死別・離別が大きく上回ります。それに符号して『妻』は既婚・パートナーが 4 割半ばと高くなっています。



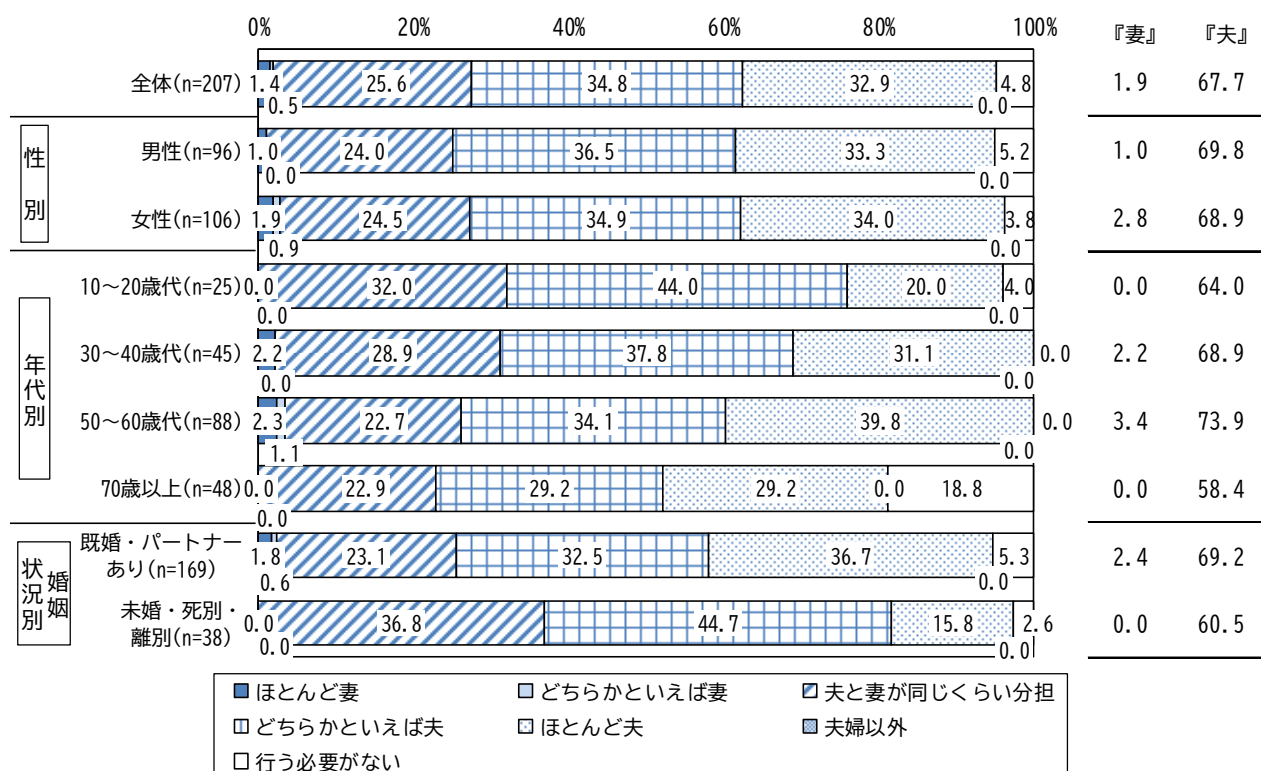
④ 生活費を稼ぐこと

「どちらかといえば夫」が34.8%で最も高く、「ほとんど夫」(32.9%)と合計した『夫』は67.7%となっています。次いで、「夫と妻が同じくらい分担」が25.6%、「ほとんど妻」が1.4%、「どちらかといえば妻」が0.5%となっています。

性別でみると、いずれの性別も「どちらかといえば夫」が最も高く、差は見られません。

年齢別にみると、10～40 歳代は「どちらかといえば夫」が最も高くなっていますが、50～60 歳代では「ほとんど夫」が約4割と他の年代を上回ります。10～20 歳代と70 歳以上では、『妻』の割合は0%となっています。

婚姻状況別にみると、既婚・パートナーありでは「ほとんど夫」が3割半ばで、未婚・死別・離別は「どちらかといえば夫」が4割半ばで最も高くなっています。



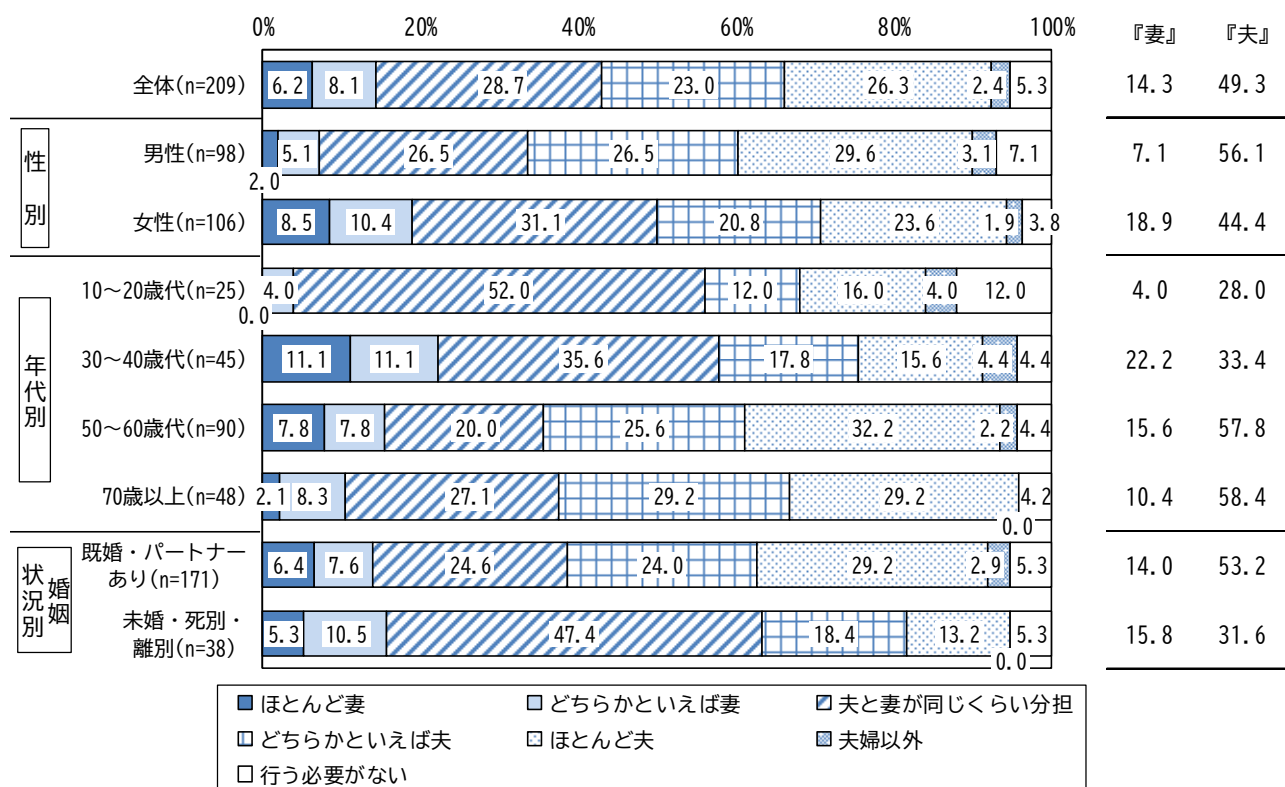
⑤ 自治会などの地域活動

「夫と妻が同じくらい分担」が28.7%で最も高く、次いで「ほとんど夫」が26.3%、「どちらかといえば夫」が23.0%、「どちらかといえば妻」が8.1%、「ほとんど妻」が6.2%、「夫婦以外」が2.4%となっています。

性別でみると、男性は「ほとんど夫」と「どちらかといえば夫」を合計した『夫』が5割を超えています。一方で、「夫と妻が同じくらい分担」は女性が男性を上回ります（4.6ポイント差）。

年代別にみると、多くが未婚者の10～20歳代は「夫と妻が同じくらい分担」が約5割と他の年代を大きく上回ります。また、『夫』は50歳以上で5割後半と高くなっています。

婚姻状況別にみると、既婚・パートナーありでは『夫』の割合が5割半ばであるのに対し、未婚・死別・離別は「夫と妻が同じくらい分担」が4割後半で多くあげられています。



(2) 家庭内の役割分担への満足度

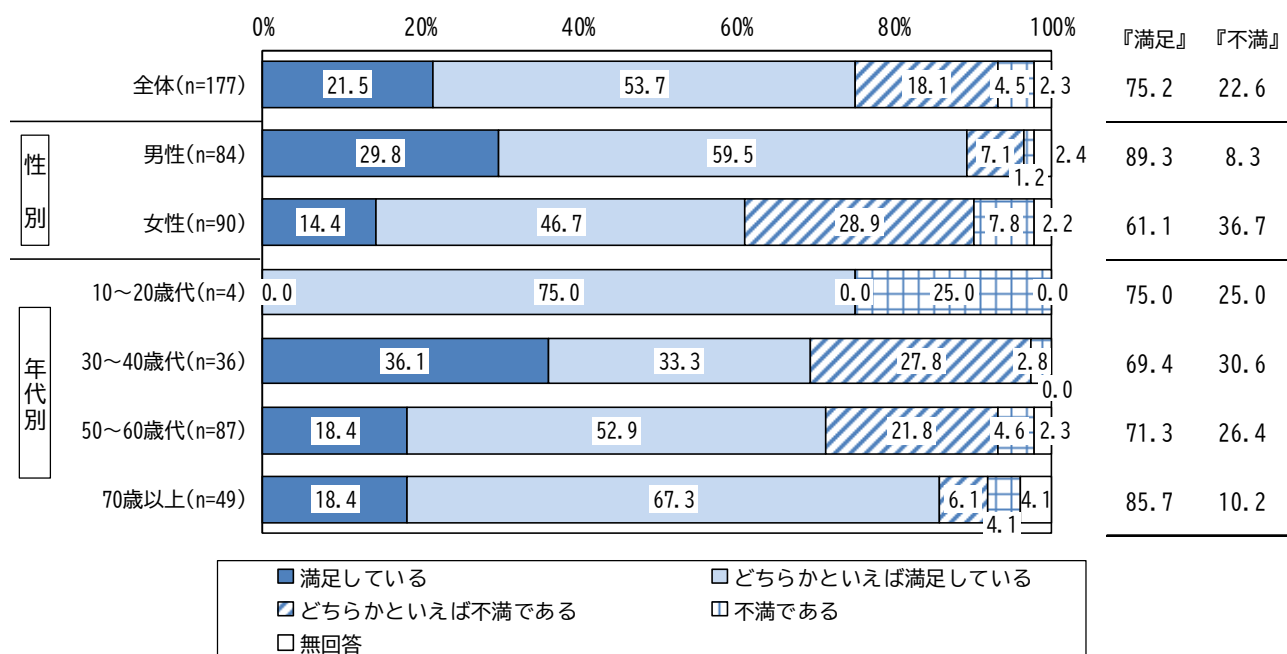
問 18 は、配偶者・パートナーのいる方のみお答えください。

問 18 あなたは、問 17 でお答えのような家庭内での役割分担について、満足していますか。
(1つに○)

「どちらかといえば満足している」が 53.7%で最も高く、次いで「満足している」が 21.5%、「どちらかといえば不満である」が 18.1%、「不満である」が 4.5%となっています。

性別でみると、男女ともに「どちらかといえば満足している」が最も高くなっていますが、「どちらかといえば不満である」は女性が男性を大きく上回ります(21.8 ポイント差)。『満足』は男性が女性を大きく上回っています(28.2 ポイント差)。

年代別でみると、30～40 歳代は「満足している」が 36.1%と高い一方で、「どちらかといえば不満」も 2 割後半と他の年代に比べ高くなっています。『満足』は 70 歳以上で 8 割を超え、『不満』は 30～40 歳代の約 3 割でそれぞれ高くなっています。



(3) ワーク・ライフ・バランスの希望と現実

問 19 生活の中での、「仕事」「家庭生活」「個人の生活（趣味・学習、地域活動など）」の優先度について、あなたの【理想】と【現実】に最も近いものをお答えください。

学生の方は、仕事を学業とおきかえてください。（1つに○）

① ワーク・ライフ・バランスの【理想】

【理想】は、「『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』すべて」が 33.0%で最も高く、次いで「『仕事』と『家庭生活』を優先」が 20.1%、「『家庭生活』と『個人の生活』を優先」が 12.8%、「『家庭生活』を優先」が 11.0%、「『個人の生活』を優先」が 8.1%、「『仕事』と『個人の生活』を優先」が 5.1%となっています。

性別でみると、「『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』すべて」は女性が男性を上回ります（8.5 ポイント差）。

年齢別にみると、いずれの年代でも「『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』すべて」が最も高くなっています。30～40 歳代は「『家庭生活』と『個人の生活』を優先」、50 歳以上は「『仕事』と『家庭生活』を優先」が他の年代に比べて高くなっています。

単位：％

		「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」を優先	「仕事」と「個人の生活」を優先	「家庭生活」と「個人の生活」を優先	「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」すべて	無回答
全体(n=273)		1.5	11.0	8.1	20.1	5.1	12.8	33.0	8.4
性別	男性(n=122)	2.5	13.9	10.7	22.1	4.9	11.5	28.7	5.7
	女性(n=145)	0.7	8.3	4.8	18.6	5.5	13.8	37.2	11.0
年代別	10～20歳代(n=45)	2.2	8.9	13.3	8.9	6.7	11.1	35.6	13.3
	30～40歳代(n=56)	1.8	12.5	5.4	17.9	7.1	17.9	28.6	8.9
	50～60歳代(n=109)	0.9	8.3	7.3	24.8	6.4	10.1	36.7	5.5
	70歳以上(n=62)	1.6	16.1	8.1	22.6	0.0	14.5	27.4	9.7

② ワーク・ライフ・バランスの【現実】

【現実】は、「『仕事』と『家庭生活』を優先」が24.2%で最も高く、次いで「『仕事』を優先」が23.1%、「『家庭生活』を優先」が10.6%、「『仕事』と『個人の生活』を優先」が10.3%、「『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』すべて」が8.8%、「『家庭生活』と『個人の生活』を優先」が8.4%となっています。

性別でみると、「『仕事』を優先」は男性が女性を上回り（11.6ポイント差）、「『家庭生活』を優先」は女性が男性を上回ります（4.9ポイント差）。

年代別にみると、10～20歳代を除いて「『仕事』と『家庭生活』を優先」が最も高くなっています。10～20歳代は「『仕事』と『個人の生活』を優先」が2割、30～40歳代は「『仕事』を優先」が3割前半と、他の年代に比べて高くなっています。

単位：％

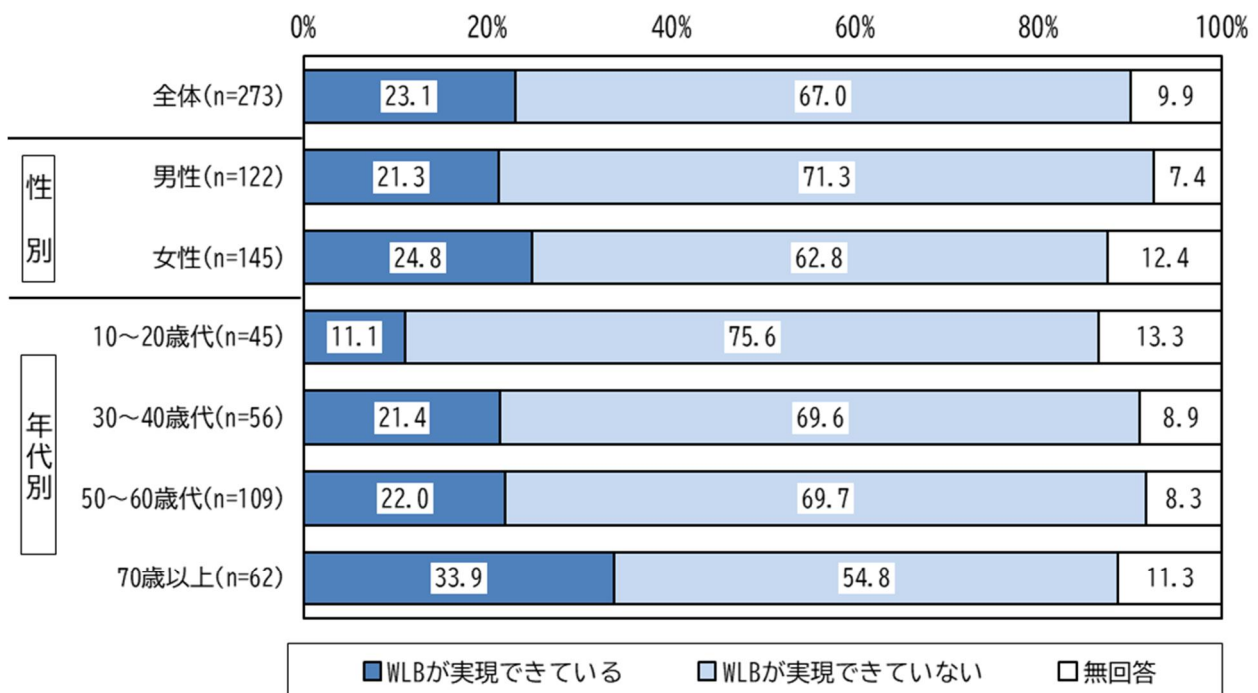
		「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」を優先	「仕事」と「個人の生活」を優先	「家庭生活」と「個人の生活」を優先	「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」すべて	無回答
全体(n=273)		23.1	10.6	5.1	24.2	10.3	8.4	8.8	9.5
性別	男性(n=122)	29.5	8.2	4.9	23.0	12.3	7.4	8.2	6.6
	女性(n=145)	17.9	13.1	5.5	24.8	8.3	9.7	8.3	12.4
年代別	10～20歳代(n=45)	26.7	4.4	13.3	13.3	20.0	4.4	4.4	13.3
	30～40歳代(n=56)	32.1	8.9	1.8	35.7	5.4	1.8	5.4	8.9
	50～60歳代(n=109)	23.9	11.9	3.7	24.8	11.9	7.3	8.3	8.3
	70歳以上(n=62)	11.3	14.5	4.8	21.0	4.8	19.4	14.5	9.7

③ ワーク・ライフ・バランスが実現できているか

問 19 の【理想】と【現実】よりワーク・ライフ・バランスが実現できているかを算出したところ、「WLB が実現できていない」の 67.0%が「実現できている」の 23.1%を上回っています。

性別でみると、男女ともに「実現できていない」人が多く、差はみられません。

年代別にみると、「実現できている」は 10～20 歳代で 1 割台と低く、年代が上がるにつれ高くなり、70 歳以上では 3 割前半となっています。

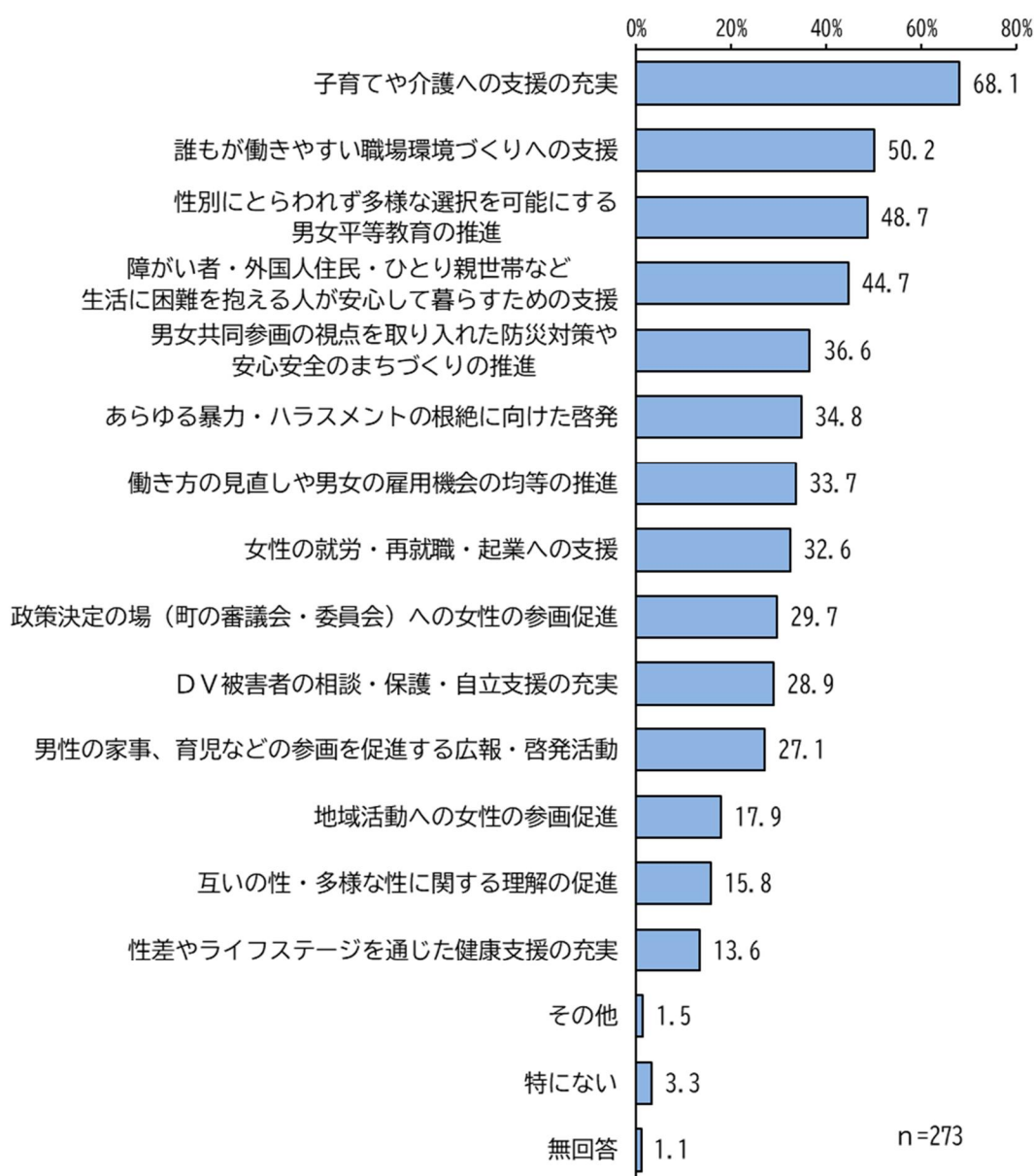


9. 男女共同参画社会の実現に向けて

(1) 男女共同参画社会実現をめざし町が重点を置くべき取組

問 20 男女共同参画社会の実現をめざして、町では、今後どのようなことに重点を置いて取り組んだらよいと思いますか。(〇はいくつでも)

「子育てや介護への支援の充実」が 68.1%で最も高く、次いで「誰もが働きやすい職場環境づくりへの支援」が 50.2%、「性別にとらわれず多様な選択を可能にする男女平等教育の推進」が 48.7%、「障がい者・外国人住民・ひとり親世帯など生活に困難を抱える人が安心して暮らすための支援」が 44.7%、「男女共同参画の視点を取り入れた防災対策や安心安全のまちづくりの推進」が 36.6%、「あらゆる暴力・ハラスメントの根絶に向けた啓発」が 34.8%となっています。



性別でみると、「地域活動への女性の参画促進」と「政策決定の場（町の審議会・委員会）への女性の参画促進」は男性が女性を上回り（各 16.7/15.1 ポイント差）、「女性の就労・再就職・起業への支援」と「男性の家事、育児などの参画を促進する広報・啓発活動」は女性が男性をそれぞれ上回ります（各 12.4/8.9 ポイント差）。

年代別にみると、いずれの年代も「子育てや介護への支援の充実」が最も高くなっています。そのほか 30～40 歳代は「誰もが働きやすい職場環境づくりへの支援」、50～60 歳代は「性別にとらわれず多様な選択を可能にする男女平等教育の推進」、70 歳以上は「男女共同参画の視点を取り入れた防災対策や安心安全のまちづくりの推進」の割合がそれぞれ他の年代に比べ高くなっています。

単位：％

		無回答	特にな い	その他	障がい者・外国人住民ひとり親世帯など生活に 困難を抱える人が安心して暮らすための支援	DV被害者の相談・保護・自立支援の充実	あらゆる暴力・ハラスメントの根絶に向けた 啓発	性差やライフステージを通じた健康支援の充 実	互いの性・多様な性に関する理解の促進	男女共同参画の視点を取り入れた防災対策や 安心安全のまちづくりの推進	地域活動への女性の参画促進	女性の就労・再就職・起業への支援	誰もが働きやすい職場環境づくりへの支援	働き方の見直しや男女の雇用機会の均等の推 進	子育てや介護への支援の充実	性別にとらわれず多様な選択を可能にする男 女平等教育の推進	男性の家事・育児などの参画を促進する広 報・啓発活動	政策決定の場 （町の審議会・委員会）への女 性の参画促進
全体(n=273)		1.1	3.3	1.5	44.7	28.9	34.8	13.6	15.8	36.6	17.9	32.6	50.2	33.7	68.1	48.7	27.1	29.7
性別	男性(n=122)	0.8	4.1	0.8	41.8	30.3	32.8	15.6	13.9	37.7	27.0	26.2	50.0	32.0	66.4	53.3	22.1	38.5
	女性(n=145)	1.4	2.8	2.1	46.2	28.3	37.9	11.0	17.2	36.6	10.3	38.6	50.3	34.5	69.7	45.5	31.0	23.4
年代別	10～20歳代(n=45)	0.0	6.7	0.0	37.8	24.4	33.3	20.0	22.2	28.9	13.3	33.3	55.6	31.1	71.1	40.0	26.7	24.4
	30～40歳代(n=56)	0.0	3.6	3.6	46.4	32.1	33.9	16.1	19.6	32.1	7.1	37.5	60.7	39.3	67.9	46.4	33.9	21.4
	50～60歳代(n=109)	2.8	3.7	1.8	43.1	31.2	37.6	11.9	13.8	35.8	19.3	31.2	46.8	34.9	67.0	53.2	28.4	31.2
	70歳以上(n=62)	0.0	0.0	0.0	50.0	25.8	32.3	9.7	11.3	48.4	29.0	30.6	43.5	29.0	67.7	48.4	19.4	38.7

10. 自由回答

◆男女共同参画についてのあなたのご意見をご自由にお書きください。◆

男女共同参画に関して自由に記入していただいたところ、49 人の方より回答がありました。以下には、年齢別に主な意見を抜粋して掲載しています。

18～19 歳（5件）

- 男も育児に積極的に参加すべきである。夫婦は協力し手を取り合って励まし合い、この成長を肌で感じるべきである。愛情を注げるよう男性も努力すべきである。対して女性は近所付き合いを男性ばかりに任せるのではなく、自ら行動していくべきである。（男性）
- 女性の役職問題は難しい現実はあるが、だからといってわざわざ、女性に役職を与えることは間違っている。それは男性への差別になる。男女、性別関わらず実力があるものが上にいくべきである。（女性）
- 男女平等という考え方は賛成である。しかし、男女平等を推進する上でやり過ぎなんじゃないかと、感じる面もある。「女性だから」「男性だから」が理由でこれが出来ない、なれないなどの考え方はたしかに存在する。これを解消していくためには、根本である人々の価値観を変えることができればすべての問題の解決につながると考える。（男性）
- 性別に関係なく、自分のやりたいことや得意なことを自由に選べる社会って、すごく素敵だと思います。まだどこかで「男だから」「女だから」といった役割のイメージが残っているけど、もっとお互いを尊重し合って、性別にとらわれない空気が広がれば、きっと誰にとっても生きやすくなる気がします。（女性）
- このような話題を考える際にどうしても主語が大きくなりがちだなと感じました。また、自分の立場になって考えた時に思考が偏らないように客観的な視点と自分の置かれた立ち位置とを複合的に考えて、男性と女性の両方に対して配慮が欠けないようにしたいと思いました。（男性）

20 歳代（3件）

- 男女共同参画とかいう言葉が難しい。（男性）
- 男とか女とかではなく、お互いを人と人として考える人が増えれば今よりもっと思いやりのある社会になるのではないかと思います。（男性）
- 男だから、女だからではなく、一人一人の個性、能力を見られる社会になれば、より力が出せると思います。でも男性、女性だからという問題もあると思うので、それはしっかりと対応できたらいいと思います。（女性）

30 歳代（5件）

- テレビの特集でも色々ところで男性の意見が通りやすいと言っていたし、半々の意見で話がまとまればいいと思った。（男性）
- 税金のムダ使いはやめてほしい。役所でできるようなことは別にない。本人がしたいようにすればいい。（女性）
- 女性の割合を増やすためだけに女性を登用したり、女性を優遇したりするのは、本当の意味での男女共同参画ではないと思う。家庭や地域、どの業界においても、性別ではなく、能力や本人の希望が優先されることが理想だと思う。（男性）

○私の職場は比較的遵法意識が高く、CSR 活動も盛んな為、育児休暇なども取りやすく、保育園に迎えに行くための時短勤務制度の取り入れや、長時間残業なども是正されてきています。こういった活動が広がっていけば良いと思います。(男性)

○昭和時代などに男は仕事・女性は家事とか、女性はお茶汲みと書類のコピー・・・の様な慣習があったらしい事は知っているが、自身の周囲では常識的な範囲内で男女は平等であり、「性差による問題」は見られなかった。男女共同参画とは関係ないかもしれないが、DV 犯罪などの被害者の保護や支援・子供のいる家庭の保育サービスの充実などは常識的に考えて重要であると思う。但しどの様な種類の支援であろうと、制度を悪用されない様に気を付けるべき。(男性)

40 歳代 (4件)

○問 20 の全てを実現できたら素晴らしいと思います。特に子育てや介護の支援は手厚くしてほしいです。(男性)

○男女共同参画社会基本法をもとにして行われる社会政策ですが、男女共同という言葉自体に違和感があります。男女共にではなく、全ての人が安心していきいきと暮らせるまちづくりの推進をお願いします。(女性)

○中井町民として町政に協力したいと思っています。(男性)

○職業選択の自由度や、性差等に対する意識の差、暴力に訴える行為。これらを是正していく基礎になるのは教育だと考えています。男女や出自を問わず、自分の目標が持てて実現に向かって努力(学習)できる社会。また社会づくりを進めるなかで、自然と男女問わず色々な活動に参画できると良いのではと思います。その為にはリモートを活用し、家に居ながらも色々な活動が出来ると良い。(男性)

50 歳代 (4件)

○幅広い視点で正していかなければならないと思いますが、少しずつ一步步でも活動を絶やさないことだと思います。男女共に考え方に偏りがあるのも事実ですので、両方に理解が必要だと思います。取り組みは大変かと思いますが期待しています。(女性)

○まだまだ差別と呼ばれるものが様々な状況で存在し、改善されていないと感じます。特に年配の方の考えなど、強く男女差を感じる時があります。とても理解のある方もいらっしゃいますが、ごく一部だと感じます。今後改善されてもっと住み良い社会になればと期待します。(女性)

○高齢者のほうが男女ともにジェンダーに対する固定観念を持っているように感じるので、そのことに手を入れる必要があると思う。(男性)

○すべての人が、自分らしく幸せな人生を送れるような社会になってほしい。(男性)

60 歳代 (19件)

○こうしたアンケートをとらなくても当たり前男女共同参画の考え方が定着する社会にするために、一人一人の意識が変わる社会にならなくてはと改めて感じた。(男性)

○女性が表舞台に出ると混乱を招く恐れがある。(男性)

○気づかないところで男女の差別はまだあります。まず気づくことが大切だと思います。(女性)

○男性とか女性とかではなく、各個人によってライフスタイルは違うと思います。自分にあった生活(役割分担)をしていくことが大事だと思います。現在の行動で次に人がやり

やすいよう考えて、他人を思いやる気持ちが最近薄れているように見受けられます。具体的には地域のごみ捨て、分別が悪い、近所との付き合い等。(女性)

- 男女共同参画という言葉自体あまり馴染みがなく関心、興味を持たれないように思うので、多くの人に知ってもらうことが先決だと思います。(女性)
- 全国的に少子高齢化の現状ですので、出産や子育て支援を充実して、育児のしやすいまちにしてほしいです。例として、3人目のお子さまにはおむつを月1回無料配布するとか。(女性)
- 男性が参加できる料理教室を開催してほしい。(男性)
- 次世代がより良い社会を実現するために何事も学校教育を充実させる、教育にお金をかける。(男性)
- 男女共に自分の生活が充実したものになればお互いに良いと思います。(女性)
- 子育ても介護も誰でも通る道だと思う。社会の中で頑張るには支援が必要だと思う。昔は家族で支え合っていたが、今は核家族となり町にも支えてほしいものです。その一つとして、学童の夏休みのお弁当や独居などの生活困窮者への宅配弁当を考えてください。(女性)
- 日々仕事で家におらず自治会未加入のため情報を取り入れることが難しく、コミュニケーションも難しい。そういう人達に対してどうしたら情報を伝えられるのか考えてほしいと思います。(女性)
- まだまだ理想であって現実になるにはかなりの年数がかかることでしょう。特に高齢者には受け入れは難しいのでは。(女性)
- まだまだ専業主婦を望む女性が多くいるのでは。積極的な社会進出、共同参画を必要としていない女性がいるのではないか。個々人が考えて行動すればいい。(男性)
- 男女平等で誰もが働きやすい、安心安全なまちづくりの推進をお願いします。(男性)
- 自治会長などは男性ばかりである。期待される役割が男性的(体力を使う、男性同士でなんとなく意思決定するなど)で、女性では現実的に無理である。これが現状。そこで女性の自治会長が可能な自治会活動にしていきたい。(男性)
- 男尊女卑の考えの家庭で育つと、それが当たり前として繰り返されていく場合が多いと思う。子どものころから教育の場でジェンダー平等の意識を育むことが重要だと思う。(女性)

70 歳代 (9件)

- 女性の積極的な政治への参加、女性議員の増加を希望する。(男性)
- 男が変われば社会も変わる。幼児教育からスタート。(女性)
- 中井町では何年も前からやっているようですが、何一つ実現されていないように思う。絵に描いたぼた餅ではなく、一つの問題がおきたら、多方面、大人数で取り組んで早期実行してもらいたい。(女性)
- 共働きの時は食事等の支度は男性もできるよう時間的なことも配慮できればいいと思います。(性別無回答)
- 女性の議員定数は半数が理想だが、そこに近づくような女性議員、女性の視点が多面的になればいいなと思います。(男性)
- 地域で助け合うことができる仕組みを考えたい。昔あった自治会対抗の体育祭のようなものが実施されるといいと思う。(女性)

Ⅲ 調査票

中井町 男女共同参画に関するアンケート

【調査へのご協力をお願い】

日ごろから、町政にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

中井町では、男女が協力し合い、支えあって喜びも責任も分かち合える男女共同参画社会の実現に向けて「中井町男女共同参画プラン」を策定し、様々な取り組みを行っています。

このたび、男女共同参画プランの見直しをするにあたり、住民の皆様の男女共同参画に関する意識や考えをお聞きし、今後の計画や施策に反映させるため、調査を行うことといたしました。

このアンケートは無記名であり、回答いただいた皆様の情報やご意見は、調査の目的以外で使用されることはありません。一部の設問や選択肢中に、時代にそぐわないとお感じになる表現が含まれる場合がありますが、経年での変化や県調査との比較を行うためのもののご了承いただけますと幸いです。

お忙しいところ、誠に恐縮ですが、このアンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、本アンケートは、町内にお住まいの18歳以上の中から1,000人の方を無作為に選ばせていただいています。

令和7年7月

中井町長 戸村 裕司

◆ご記入についてのお願い◆

- 宛名のご本人によるご回答をお願いします。
- 回答は、**「郵送」**または**「インターネット」**で行うことができます。どちらかの方法をお選びください。(インターネット回答を選択した場合は、調査票の返送は不要です。)

郵 送 回 答 調査票に直接ご記入いただき、同封の返信用封筒に入れて切手を貼らずに郵便ポストへ投函してください。

回答にあたっては、選択肢の番号を○で囲むように記入し、「その他」の番号を選択した場合は()内に具体的に記入してください。

(回答例) ① 2 3

インターネット回答 下記の QR コードまたは URL よりアクセスし、**回答用パスワード**を入力の上、インターネットに接続したパソコン、スマートフォンなどから回答してください。

URL <https://enquete.cc/q/R7nakai-danjo> **回答フォーム**

●回答用パスワード: r7nakai (全て小文字)

はこちら→



- 返信用封筒や調査票、入力フォームなどのご回答にお名前やご住所などの個人情報は書かないでください。

- 回答は、**令和7年8月13日(水)**までに投函または送信してください。

- **問い合わせ先** 中井町 地域防災課 地域活動支援班

電 話 0465-81-1110

Eメール chiiki@town.nakai.kanagawa.jp

◆ 男女の地位の平等について

問7 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。
(1つに○)

1 賛成	2 どちらかといえば賛成
3 どちらかといえば反対	4 反対

問8 あなたは、次の分野で男女が平等になっていると思いますか。(それぞれ1つに○)

	男性の方が非常に 優遇されている	男性の方が 優遇されている	どちらかといえば 男性の方が 優遇されている	平等	どちらかといえば 女性の方が 優遇されている	女性の方が非常に 優遇されている
① 家庭生活で	1	2	3	4	5	
② 職場で	1	2	3	4	5	
③ 学校教育の場で	1	2	3	4	5	
④ 政治の場で	1	2	3	4	5	
⑤ 法律や制度の上で	1	2	3	4	5	
⑥ 社会通念や慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5	
⑦ 自治会の活動で	1	2	3	4	5	
⑧ PTA やボランティアなどの活動で	1	2	3	4	5	
⑨ 社会全体で	1	2	3	4	5	

◆ 家事や子育てに関する意識について

問9 以下の家事や子育て・育児に関する考え方についてどう思いますか。(それぞれ1つに○)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
① 子どもが3歳になるまでは、母親が育児に専念したほうがよい	1	2	3	4
② 父親と母親は分担・協力し合って、ともに子育てに取り組んだ方がよい	1	2	3	4
③ 男の子も女の子も性別ではなく、それぞれの個性や能力に合った育て方をした方がよい	1	2	3	4
④ 掃除・洗濯・料理などの家事は、男女を問わず身に付けさせた方がよい	1	2	3	4

問10 あなたは、進路や職業選択の際に性別を意識しましたか。(1つに○)

1	性別を意識した
2	どちらかといえば性別を意識した
3	どちらかといえば性別を意識しなかった
4	性別を意識しなかった

◆ 用語などの認知度について

問11 あなたは、次にあげる用語や法律、町の実施する取組について知っていますか。
(それぞれ1つに○)

	内容まで 知っている	ある 聞いたことが	知らない
① 男女共同参画社会	1	2	3
② ジェンダー (文化的・社会的な性差)	1	2	3
③ アンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)	1	2	3
④ ドメスティック・バイオレンス(DV) (配偶者やパートナーなどからの暴力)	1	2	3
⑤ デートDV(交際相手からの暴力)	1	2	3
⑥ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	1	2	3
⑦ 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律	1	2	3
⑧ 性的マイノリティ(LGBTQ+)	1	2	3
⑨ SOGI(性的指向と性自認)	1	2	3
⑩ 中井町男女共同参画プラン	1	2	3
⑪ 中井町パートナーシップ宣誓制度	1	2	3

◆ 男女がともに働きやすい就業環境について

問12 女性の働き方について、どのように思いますか。(1つに○)

1	ずっと仕事を続ける方がよい	
2	子どもができたら仕事をやめ、大きくなったらフルタイムで仕事をもつ方がよい	
3	子どもができたら仕事をやめ、大きくなったらパートタイムで仕事をもつ方がよい	
4	子どもができたら、仕事をやめる方がよい	
5	結婚したら仕事をやめる方がよい	
6	仕事をもたない方がよい	
7	その他 ()	
8	わからない	

問13 あなたは、性別にかかわらず、すべての人がともに働きやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1	長時間労働を是正する	
2	短時間勤務やテレワークなど柔軟な働き方ができる	
3	ワーク・ライフ・バランスに理解がある上司がいる	
4	働くことについて家族の理解と協力がある	
5	育児・介護休業時の経済的補償を充実する	
6	育児や介護について職場の理解と協力がある	
7	保育サービスの充実	
8	介護サービスの充実	
9	育児や介護について地域で助け合う	
10	再就職・再チャレンジがしやすくなる	
11	「男は仕事、女は家事・育児」という社会通念を改める	
12	わからない	
13	その他 ()	
14	特になし	

問14 育児や介護を行うために、育児休業や介護休業を取得できる制度があります。あなたは、そうした休業が必要な状況になった時に利用しますか。(それぞれ1つに○)

	利用 する	利用 したい が できない	利用 しない	わ か ら ない
① 育児休業	1	2	3	4
② 介護休業	1	2	3	4

◆ 防災対策における男女共同参画について

問15 災害時の緊急避難所において、男女共同参画の視点から特に必要と思われる支援や配慮は何ですか。(3つまでに○)

- 1 男女別のトイレ、入浴施設、寝所など、性別に配慮した施設・空間の設置
- 2 粉ミルク・哺乳瓶・おむつといった育児用品の手配など育児に関する配慮
- 3 女性用下着や生理用品を配布する際、女性には女性職員が配布するなどの細かな気配り
- 4 性差やそれに基づくニーズに配慮した相談支援窓口の設置（こころのケアも含む）
- 5 避難所の運営管理などに、男性と女性の双方の視点が採り入れられること
- 6 性別に関係なく集まることができる、交流の場の設置
- 7 防犯ブザーの配布や夜間の見回りなど、避難所の防犯対策
- 8 避難者による食事作り・片付け、清掃などが特定の性別・立場の人に偏っていないこと
- 9 その他（ ）

◆ DV・デートDVについて

問16 あなたは、配偶者などの間で起こる暴力（DV）やデートDVの対策や防止のために、どのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

- 1 多様な相談窓口（電話・メール・SNSなど）を周知し、被害者が相談しやすい環境を整備する
- 2 相談窓口を案内するカードをトイレなど手に取りやすい場所に設置する
- 3 DV被害者の住民票の閲覧制限など、プライバシーを守る施策を充実する
- 4 被害の実態や被害者の支援策を多言語で周知する
- 5 被害者の自立支援（住宅の確保、就労支援、子どもの就学の支援など）を行う
- 6 相談支援員の専門性やスキルの向上に努める
- 7 学校で人権や男女平等に関する授業を実施する
- 8 親しい間柄でも暴力は人権侵害であるとの意識を啓発する
- 9 わからない
- 10 その他（ ）
- 11 特にない

◆ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

問17 は、配偶者・パートナーのいる方、今後ご結婚やパートナーと同居をお考えの方がお答えください。

問17 次にあげる事柄は、主にどなたがしていますか。現在結婚・同居していない方は、今後そうした状況になったときにどうしていきたいかをお答えください。
(それぞれ1つに○)

	ほとんど妻	どちらかという妻	夫と妻が同じくらい分担	どちらかという夫	ほとんど夫	夫婦以外	行わない
① 家事（炊事・洗濯・掃除など）	1	2	3	4	5	6	7
② 育児や子どもの教育	1	2	3	4	5	6	7
③ 親や家族の介護・看護	1	2	3	4	5	6	7
④ 生活費を稼ぐこと	1	2	3	4	5	6	7
⑤ 自治会などの地域活動	1	2	3	4	5	6	7

問18 は、配偶者・パートナーのいる方のみお答えください

問18 あなたは、問17でお答えのような家庭内での役割分担について、満足していますか。(1つに○)

1 満足している	2 どちらかといえば満足している
3 どちらかといえば不満である	4 不満である

問19 生活の中での、「仕事」「家庭生活」「個人の生活（趣味・学習、地域活動など）」の優先度について、あなたの【理想】と【現実】に最も近いものをお答えください。
学生の方は、仕事を学業とおきかえてください。(1つに○)

【理想】	【現実】
1 「仕事」を優先	1 「仕事」を優先
2 「家庭生活」を優先	2 「家庭生活」を優先
3 「個人の生活」を優先	3 「個人の生活」を優先
4 「仕事」と「家庭生活」を優先	4 「仕事」と「家庭生活」を優先
5 「仕事」と「個人の生活」を優先	5 「仕事」と「個人の生活」を優先
6 「家庭生活」と「個人の生活」を優先	6 「家庭生活」と「個人の生活」を優先
7 「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」すべて	7 「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」すべて

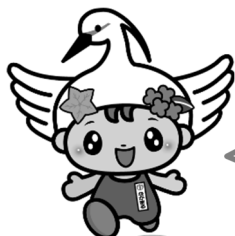
問20 男女共同参画社会の実現をめざして、町では、今後どのようなことに重点を置いて取り組んだらよいと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 政策決定の場(町の審議会・委員会)への女性の参画促進
- 2 男性の家事、育児などの参画を促進する広報・啓発活動
- 3 性別にとらわれず多様な選択を可能にする男女平等教育の推進
- 4 子育てや介護への支援の充実
- 5 働き方の見直しや男女の雇用機会の均等の推進
- 6 誰もが働きやすい職場環境づくりへの支援
- 7 女性の就労・再就職・起業への支援
- 8 地域活動への女性の参画促進
- 9 男女共同参画の視点を取り入れた防災対策や安心安全のまちづくりの推進
- 10 互いの性・多様な性に関する理解の促進
- 11 性差やライフステージを通じた健康支援の充実
- 12 あらゆる暴力・ハラスメントの根絶に向けた啓発
- 13 DV被害者の相談・保護・自立支援の充実
- 14 障がい者・外国人住民・ひとり親世帯など生活に困難を抱える人が安心して暮らすための支援
- 15 その他()
- 16 特にない

◆男女共同参画についてのあなたのご意見をご自由にお書きください。◆

お忙しいところ調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒(切手不要)に入れて8月13日(水)までにご投函願います。



中井町では、男女共にいきいきと暮らせる町をめざす
情報誌「ひだまり」の発行など、情報発信を行っています。
「男女共同参画ってなに？」と疑問に思ったらぜひご覧ください！

中井町 HP の「ひだまり」
のサイトへ↓



中井町 男女共同参画に関するアンケート

調査結果報告書

発 行 日：令和7年11月

編集・発行：中井町役場 地域防災課 地域活動支援班

〒259-0197 神奈川県足柄上郡中井町比奈窪 56

TEL 0465-81-1110（直通） FAX 0465-81-1443